

岡山市文化財目録

令和7年度版

岡山市教育委員会

目 次

1	国指定文化財	1
2	県指定文化財	10
3	市指定文化財	21
4	登録文化財ほか	34
	付録 岡山市指定文化財一覧	44

※種別ごとに指定日の古いものから並べている。

※国宝指定等変更があった場合であっても、最初の指定年月日を記載。

※自治体所有のものについては、保管・管理機関を記載。

1 国指定文化財

【国指定重要文化財】

種別	名称(ふりがな) 所在地	指定年月日 (西暦)	所有者 (管理者)	概要
建造物 (国宝)	吉備津神社本殿及び拝殿 (きびつじんじゃほんでんおよびはいでん) 北区吉備津	明治35年 4月17日 (1902)	吉備津神社	吉備津神社は吉備の総鎮守。本殿は足利義満の命で応永32(1425)年に再建。比翼入母屋造(吉備津造)と呼ばれる独特の外観で、大仏様の特徴が見られる。
建造物	吉備津神社南随神門 (きびつじんじゃみなみずいじんもん) 北区吉備津	明治44年 4月17日 (1911)	吉備津神社	吉備津神社中、現存最古の建物で、延文2年(1357)の建築。入母屋造、本瓦葺の三間一戸八脚門。
建造物	吉備津神社北随神門 (きびつじんじゃきたずいじんもん) 北区吉備津	大正2年 4月14日 (1913)	吉備津神社	本殿と同時期、室町時代中期の再建と考えられている。入母屋造、檜皮葺の三間一戸八脚門。
建造物	岡山城月見櫓 (おかやまじょうつきみやぐら) 北区丸の内二丁目	昭和8年 1月23日 (1933)	岡山市	元和年間(1615～1624)に池田忠雄が整備した本丸中の段の北西隅櫓。二重二階、一部地階。
建造物	岡山城西丸西手櫓 (おかやまじょうにしのみるにしてやぐら) 北区丸の内一丁目	昭和8年 1月23日 (1933)	個人 (岡山市)	幼少の池田忠継に代わって藩を治めた利隆が整備した西丸西側の隅櫓。慶長8年(1603)ごろ建築とされる。二重二階建てで武骨な外観だが、二階内部は座敷を設ける。
建造物	旧犬養家住宅 (きゅういぬかいけじゅうたく) 北区川入	昭和53年 1月21日 (1978)	岡山県	犬養家は代々大庄屋を務めた豪農で、後に犬養毅を輩出。主屋は切妻造の周囲に庇を付け本瓦を葺いており、六間取の平面を持つ。
建造物	吉備津神社御釜殿 (きびつじんじゃおかまでん) 北区吉備津	昭和55年 1月26日 (1980)	吉備津神社	「雨月物語」で有名な鳴釜神事を行う建物。慶長17(1612)年の建築。入母屋造、本瓦葺で、類例のまれな特殊な建築。
建造物	旧旭東幼稚園園舎 (きゅうきょくとうようちえんえんしゃ) 北区二日市	平成19年 6月8日 (2007)	岡山市	八角形の遊戯室を中心に、四方に張り出した保育室、事務室で構成。明治41年の建築。県技師・江川三郎八が設計。
建造物 (石造美術)	八幡神社鳥居 (はちまんじんじゃとりい) 北区下足守	昭和31年 6月28日 (1956)	葦守八幡神社	康安元(1361)年造立の花崗岩製両部鳥居。葦守八幡神社は吉備氏伝承に繋がる古社で、鳥居の柱に大工・願主・祝師等の刻銘がある。
建造物 (石造美術)	鼓神社宝塔 (つづみじんじゃほうとう) 北区上高田	昭和31年 6月28日 (1956)	鼓神社	鼓神社は備中二宮。貞和2(1346)年建立の花崗岩製宝塔。装飾豊かで県下最大の規模。勧進・大工等の刻銘がある。
建造物 (石造美術)	守福寺宝殿 (しゅふくじほうでん) 北区下足守	昭和36年 3月23日 (1961)	守福寺	歴応元(1338)年建立の花崗岩製宝殿。正面春日造、背面寄棟造で、向拝柱に年代と堂名「王子口」の刻銘がある。

絵画	絹本墨画廬山図〈玉潤筆/自賛がある〉 (けんぽんぼくがろさんず) 北区天神町	昭和27年 3月29日 (1952)	岡山県立 美術館	中国の宋末期から元初期の画僧・玉潤の作。江西省の廬山を描き自賛を付ける。江戸時代に元画を切断。
絵画	紙本墨画山水図〈雪舟筆/倣玉潤〉 (しほんぼくがさんすいず) 北区天神町	昭和31年 6月28日 (1956)	岡山県立 美術館	雪舟が宋の画僧・玉潤の作を範に描いた山水図。正方形の紙面にうちわ形を描き、中に山水を表現した作品。
絵画	絹本著色清明上河図〈趙浙筆/萬暦五年十月の年記がある〉 (けんぽんちゃくしよくせいめいじょうかず) 北区丸の内二丁目	昭和38年 7月1日 (1963)	林原美術館	北宋末の画家・張沢端の作品を明の趙浙が模写したもの。萬暦5(1577)年の記銘がある。春の到来を祝う清明節の様子を描く。
絵画	紙本著色花鳥図〈長谷川信春筆/六曲屏風〉 (しほんちゃくしよくかちょうず) 北区御津町金川	昭和43年 4月25日 (1968)	妙覚寺	信春(しんしゅん)は長谷川等伯の初期の号。等伯の画風に近づいており、信春と名乗った時期でも後期の作とされる。長谷川派花鳥画のうちで屈指の優作。
絵画	紙本金地著色洛中洛外図〈/六曲屏風〉 (しほんこんぢちゃくしよくらくちゅうらくがいず) 北区丸の内二丁目	平成8年 6月27日 (1996)	林原美術館	池田藩に伝来の屏風一双。二条城の天守がそびえる洛中洛外図形式の代表的作品。元和期(1615～1624)の狩野派の絵師の作と伝わる。
絵画	絹本著色宇喜多能家像 (けんぽんちゃくしよくうきたよしいえぞう) 北区天神町	平成9年 6月30日 (1997)	岡山県立 美術館	宇喜多能家は備前国邑久郷を本拠とする室町時代の武将で、直家の祖父。長大な画賛があり、款記は大永4年(1524)8月のある。
絵画	紙本墨画老子像〈牧谿筆/〉 (しほんぼくがろうしぞう) 北区天神町	平成25年 6月19日 (2013)	岡山県立 美術館	禅宗の祖師像にならい半身の老子の姿を描く。古来牧谿の東山御物として珍重。足利義満、徳川家康から紀州徳川家に伝来。
絵画	紙本淡彩山雨染衣図〈浦上玉堂筆/〉 (しほんたんさいさんうせんいず) 北区天神町	昭和35年 6月9日 (1960)	岡山県立 美術館	前景に土坡と樹木を描く。近景は雨後の景色で、遠景にはまだ山雨がけむっており、晴雨二つの景観が描写される。玉堂の代表的一作である。
彫刻	木造聖観音立像 (もくぞうしょうかんのりゅうぞう) 北区法界院	明治34年 8月2日 (1901)	法界院	藤原時代中期(11C)の作。桧一木造りで、全体に古様を伝える。像高103.7cm。当初は彩色像であった。
彫刻	木造毘沙門天立像・木造不動明王立像 (もくぞうびしゃもんてんりゅうぞう・もくぞうぶどうみょうおうりゅうぞう) 北区日応寺	昭和54年 6月6日 (1979)	日応寺	鎌倉時代前期の作。桧材寄せ木造りで、頭髮・肉身・衣装の彩色と施文は製作時のままを伝える。像高159.4cm。
彫刻	木造獅子狛犬 (もくぞうししこまいぬ) 北区吉備津	平成14年 6月26日 (2002)	吉備津神社	鎌倉時代末期の作と推定。一對。各高92cm。寄せ木造り漆地彩色。両方で阿吽の形をなす。本殿内陣扉前の東西に置く。
彫刻	木造観音菩薩立像 (もくぞうかんのんばさつりゅうぞう) 東区竹原	平成20年 7月10日 (2008)	明王寺	鎌倉時代初期の作と推定。桂の一木造り。全高84.8cm。平安時代の作風を伝え、造形・運刀が優秀で、もとは秘仏とされていた。

工芸品	銅鐘 (どうしょう) 東区西大寺三丁目	明治34年 8月2日 (1901)	西大寺	朝鮮の高麗時代初期の作と推定。総高108.3cm、口径65.2cmの大振りの銅梵鐘。我が国に伝わる朝鮮鐘では大型の逸品。
工芸品	太刀〈銘(菊紋)井上真改/延宝五年八月日〉 (たち〈めい(きくもん)いのうえしんかい/えんぼうごねんはちがつひ〉) 北区後楽園	明治45年 2月8日 (1912)	吉備津彦神社 (岡山県立博物館)	江戸時代前期の大坂新刀。刃長69.7cm。反り1.8cm。鎬造り、庵棟。姿は細目の鎬幅広。刃文は広直刃の湾。奉納用拵付き。
工芸品	太刀〈銘備前国長船住左近将監長光造/正応二年十月〉 (たち〈めいびぜんのかにおさふねじゅうさこんしょうげんながみつぞう/しょうおうにねんじゅうがつ〉) 北区丸の内二丁目	昭和6年 1月19日 (1931)	林原美術館	鎌倉時代中期の作。刃長74.8cm。反り2.5cm。鎬造り、庵棟。太刀姿は腰反りが強く、中鋒。刃文は中丁子に互の目と小乱れ。
工芸品	太刀〈銘光忠/〉 (たち〈めいみつただ〉) 北区丸の内二丁目	昭和6年 12月14日 (1931)	林原美術館	長船鍛冶の始祖である光忠の作。鎌倉時代中期。刃長68.7cm。反り2.7cm。鎬造、庵棟。鍛えは小板目肌で映りがよく立ち、粒子の細かい沸(にえ)がつく。
工芸品	太刀〈銘助真/〉 (たち〈めいすけざね〉) 北区丸の内二丁目	昭和8年 1月23日 (1933)	ナガセヴィータ(株) (林原美術館)	鎌倉時代中期の福岡一文字派の作。刃長78.9cm。反り3.3cm。鎬太刀姿。助真は福岡一文字派を代表する名工。徳川將軍家の伝来品。
工芸品 (国宝)	太刀〈銘吉房/〉 (たち〈めいよしふさ〉) 北区丸の内二丁目	昭和8年 1月23日 (1933)	林原美術館	鎌倉時代中期の福岡一文字派の作。刃長71.2cm。反り2.7cm。鎬造、庵棟。刃文は重花丁子乱れ。
工芸品	太刀〈銘則宗/〉 (たち〈めいのりむね〉) 北区後楽園	昭和9年 1月30日 (1934)	岡山県立博物館	鎌倉時代初期の福岡一文字派の作。刃長80.2cm。反り3.2cm。鎬造り、庵棟。太刀姿は細身で腰反りが強く、古備前風。
工芸品	太刀〈銘正恒/〉 (たち〈めいまさつね〉) 北区丸の内二丁目	昭和12年 5月25日 (1937)	林原美術館	平安時代後期の古備前派の作。刃長75.5cm。反り2.4cm。鎬造り、庵棟。腰反りが高く身幅がある。刃文は古沸出来の丁子。
工芸品 (国宝)	短刀〈無銘正宗(名物九鬼正宗)/〉 (たんとう〈むめいまさむね(めいぶつくきまさむね)〉) 北区丸の内二丁目	昭和12年 5月25日 (1937)	ナガセヴィータ(株) (林原美術館)	鎌倉時代の名工正宗の作。刃長24.8cm。やや内反り。もとは九鬼長門守が所持していたことが別名の由来。享保名物帳に記載。
工芸品	太刀〈銘御作/〉 (たち〈きくごさく〉) 北区丸の内二丁目	昭和15年 5月3日 (1940)	ナガセヴィータ(株) (林原美術館)	鎌倉時代初期、後鳥羽天皇の焼かせた御太刀。上皇自らも焼刃し、十六葉の菊の御紋を刻んだ。刃長74.2cm。反り1.7cm。
工芸品	太刀〈銘吉家/〉 (たち〈めいよしいえ〉) 北区丸の内二丁目	昭和16年 7月3日 (1941)	ナガセヴィータ(株) (林原美術館)	平安時代中期の京都三条派の作。刃長69.4cm。反り2.2cm。鎬造、庵棟。太刀姿は細身の小鋒、刃文は小乱れで凝り金筋が入る。
工芸品	太刀〈銘長光/〉 (たち〈めいながみつ〉) 北区後楽園	昭和17年 6月26日 (1942)	岡山県立博物館	鎌倉時代の作。刃長73.0cm。反り2.0cm。鎬造、庵棟。刃文は高さの揃った丁子で明るく冴える。庄内藩に伝来「庄内長光」の別名。

工芸品 (国宝)	太刀〈銘備前国長船住左近将監長光造/〉 (たち〈めいびげんのくにおさふねじゅうさこんしょうげんながみつぞう〉) 北区丸の内二丁目	昭和17年 6月26日 (1942)	林原美術館	鎌倉時代中期の初代長光作。刃長78.7cm。反り2.7cm。鎬造、庵棟。刃文は丁子に互の目交じり、金筋がかり、小沸。
工芸品	紺絲威胴丸〈兜、大袖付/〉 (こんいとのおどしどうまる) 北区丸の内二丁目	昭和27年 3月29日 (1952)	林原美術館	南北朝時代の作。南部氏の後村上天皇からの拝領品。胴丸の形状に桂甲の手法を残す古式のもので、完存する優品。
工芸品	太刀〈銘末守/〉 (たち〈めいすえもり〉) 北区丸の内二丁目	昭和29年 3月20日 (1954)	ナガセヴィータ(株) (林原美術館)	鎌倉時代中期の長船派の作。刃長81.8cm。反り2.4cm。鎬造、庵棟。太刀姿は身幅広で腰反り刃文は中直刃に小丁子交じり。
工芸品	太刀〈銘一/〉 (たち〈めいいち〉) 北区丸の内二丁目	昭和30年 2月2日 (1955)	林原美術館	鎌倉時代前半の福岡一文字派の作。刃長68.2cm。反り1.5cm。鎬造、庵棟。刃文は丁子の重花丁子の交じり。小沸がよい。
工芸品	太刀〈銘吉包/〉 (たち〈めいよしかね〉) 北区丸の内二丁目	昭和30年 6月22日 (1955)	ナガセヴィータ(株) (林原美術館)	平安時代末期の古備前派の作。刃長78.7cm。反り3.0cm。鎬造、庵棟。太刀姿は腰反り高く踏ん張る。刃文は小乱れに小丁子交じり。
工芸品	小太刀〈銘正恒/〉 (こだち〈めいまさつね〉) 北区丸の内二丁目	昭和31年 6月28日 (1956)	林原美術館	平安時代後期の古備前派の作。刃長66.4cm。反り2.3cm。太刀姿は腰反りが高く中鋒。刃文は小乱れの内に小丁子交じり。
工芸品	太刀〈銘近包/〉 (たち〈めいちかかね〉) 北区丸の内二丁目	昭和32年 2月19日 (1957)	林原美術館	鎌倉時代初期の古備前派の作。長76.6cm。反り2.27cm。鎬造、庵棟。刃細身の腰反り。刃文は直刃の浅い湾れ、細かな沸。
工芸品	刀〈無銘一文字/〉 (かたな〈むめいいちもんじ〉) 北区丸の内二丁目	昭和33年 2月8日 (1958)	林原美術館	鎌倉時代中期の福岡一文字派の作。刃長69.7cm。反り2.6cm。鎬造り、庵棟。腰反り。刃文は重花丁子で、匂が深く、小沸交り。
工芸品	太刀〈銘正恒(青江)/〉 (たち〈めいまさつね(あおえ)〉) 北区丸の内二丁目	昭和34年 6月27日 (1959)	林原美術館	平安時代末期の古青江派の作。刃長82.1cm。太刀姿は庵が低い小鋒。刃文は直刃調で小乱れ交金筋がかり。
工芸品	太刀〈銘備州住高光作/元亨四年七月日〉 (たち〈めいびしゅうのじゅうたかみつさく/げんこうよねんしちがつひ〉) 北区丸の内二丁目	昭和34年 12月18日 (1959)	林原美術館	鎌倉時代末期の備後国の作。刃長77.2cm。反り2.7cm。鎬造、庵棟。細身で中鋒。刃文は中直刃で、丁子足が入り小乱れ交じり。
工芸品	能装束〈繡箔葭水禽文/〉 (のうしょうぞく〈めいはくあしすいきんもん〉) 北区丸の内二丁目	昭和38年 7月1日 (1963)	林原美術館	桃山時代の代表的な小袖。袷仕立て。刺繍と金銀の摺箔により、芦と水鳥の模様を写実的で華麗な文様に表現する。
工芸品	能装束 繡箔菊橘文 (のうしょうぞく ぬいはくきくたちばなもん) 北区丸の内二丁目	昭和38年 7月1日 (1963)	林原美術館	桃山時代の作。袷仕立て。肩裾形式の繡箔。白地に入子松皮菱繋ぎの摺箔部と、丸太に草花模様を入れたはぎ合わせ。

工芸品 (国宝)	赤韋威鎧 兜、大袖付 (あかかわおどしよろい かぶと、おおそでつき) 北区後楽園	昭和44年 6月20日 (1969)	岡山県立 博物館	大鎧は平安時代末期の特色を、兜は鎌倉時代の様式を示している。承久の乱の功により、地頭として赴任した赤木家に伝承。
工芸品	能装束 白地草花文肩裾縫箔 (のうしょうぞく しろじくさばなもんかたすそぬいはく) 北区丸の内二丁目	昭和45年 5月25日 (1970)	林原美術館	桃山時代の作。袷仕立ての肩裾。表は金箔を施して草花文様を刺繍し、水藻と流水を描絵。繡箔の手法は優れ色彩は良。
工芸品	能装束 紅白締切菊桐文段替唐織 (のうしょうぞく こうはくしめきりきくきりもんだんがわりからおり) 北区丸の内二丁目	昭和45年 5月25日 (1970)	林原美術館	桃山時代の装束。袷仕立て。表は経白と偉紅の6枚綾地で、紅地に格子縞地文、白地に菊・桐文を織り出す古様の唐織り。
工芸品	紅地菊枝桐亀甲文唐織小袖 (べにじきくえだきりきっこうもんからおりこそで) 北区丸の内二丁目	昭和52年 6月11日 (1977)	林原美術館	桃山時代の装束。表に色糸の絵偉で菊枝亀甲花菱、桐紋の文様を織出した唐織りの小袖。池田輝政室の小袖を能装束に転用。
工芸品	能装束 紅地山桜円文蔓草模様縫箔 (のうしょうぞく べにじやまざくらえんもんつるくさもようぬいはく) 北区丸の内二丁目	昭和52年 6月11日 (1977)	林原美術館	江戸時代初頭の優品。紅の綾地の墨染文様に細かい草花文様を繡と繡箔を施す。池田輝政の夫人の小袖を転用したという。
工芸品	能装束 摺箔紅白段桜花文 (のうしょうぞく すりはくこうはくだんおうかもん) 北区丸の内二丁目	昭和56年 6月9日 (1981)	林原美術館	桃山時代の装束。練偉と綿入れの袷仕立て。上半は紅白染めの片身替り、下半は紅白段々の縫合わせで、江戸初期に改装。
工芸品	綾杉地獅子牡丹蒔絵婚礼調度 (あやすぎぢししぱたんまきえこんれいちょうど) 北区丸の内二丁目	平成13年 6月22日 (2001)	ナガセヴィータ(株) (林原美術館)	幕府の御用蒔絵師だった漆工芸集団「幸阿弥家」が制作し、将軍家から池田家に姫が嫁いだ時に持参したと伝えられる調度品。
古文書	金山寺文書 (きんざんじもんじょ) 北区後楽園	昭和44年 6月20日 (1969)	金山寺 (岡山県立博物館)	天平勝宝元年の開基伝承の金山寺に伝わる平安から室町時代にかけての52通の文書と縁起。当地方の動向を示す史料。
書跡典籍	信長記 (しんちょうき) 北区津島中一丁目	昭和51年 6月5日 (1976)	岡山大学	織田信長の右筆の太田牛一自筆本15冊。本書は池田家の依頼により、慶長15年に太田が自ら清書本を制作したもの。

歴史資料	アジア航海図(羊皮紙著色) (あじあこうかいず(ようひしちやくしよく)) 北区丸の内二丁目	昭和59年 6月6日 (1984)	林原美術館	桃山時代の作と推定。羊皮紙の表面全体に胡粉し、東は日本、南はジャワ諸島、西はアラビア、北は中国北部まで描写。
歴史資料	閑谷学校関係資料 (しずたにがっこうかんけいしりょう) 北区後楽園	平成14年 6月26日 (2002)	岡山県立博物館	閑谷学校は寛文10年(1670)に開校した岡山藩の郷学。延宝5年(1677)に建設された文庫に収蔵された典籍など4,041点。
考古資料	特殊器台 (とくしゅきだい) 北区後楽園	平成5年 6月10日 (1993)	岡山県立博物館	総社市宮山遺跡(墳墓群)から出土。弥生後期の吉備で一般の器台から発達した祭祀用土器。円筒埴輪の素形となった。
考古資料	突線流水文銅鐸 (とっせんりゅうすいもんどうたく) 北区後楽園	平成12年 12月4日 (2000)	岡山県立博物館	高塚遺跡出土。銅鐸は高さ58.0cm。流水紋で飾られる。貨泉は中国銭で出土数は最多。棒状銅製品は銅の素材とみられる。

【国指定記念物】

種別	名称(ふりがな) 所在地	指定年月日 (西暦)	所有者 (管理者)	概要
史跡	造山古墳 (つくりやまこふん) 北区新庄下	大正10年 3月8日 (1921)	岡山市ほか	全長350m。古墳時代前期の巨大前方後円墳。全国4位の規模。前方部先に千足古墳・榑山古墳を含む6基の小墳が並ぶ。
史跡	旧岡山藩藩学 (きゅうおかやまはんはなぐく) 北区蕃山町	大正11年 3月8日 (1922)	岡山市	岡山藩主池田光政が寛文9年(1669)に設けた藩士子弟の藩学。講堂、校門、正門が遺存したが戦災で焼失。泮池現存。
史跡	大多羅寄宮跡 (おおだらよせみやあと) 東区大多羅	昭和2年 4月8日 (1927)	布施神社	正徳2年(1712)に藩主池田綱政が、藩内71社の寄宮の内66社を再統合して祀ったもの。寄宮は寛文の神社淘汰策で造立。
史跡	万富東大寺瓦窯跡 (まんとみとうだいじかわらがまあと) 東区瀬戸町万富	昭和2年 4月8日 (1927)	岡山市ほか	平安時代末に戦乱で焼失した東大寺の再建瓦を焼成した瓦窯。建久4年(1193)に備前国が造営料国となり築かれた。
史跡	惣爪塔跡 (そうづめとうあと) 北区惣爪	昭和3年 2月7日 (1928)	国	足守川畔の水田中に長径2m、短径1.5mの塔心礎が遺存。関連遺構は不明ながら、付近から瓦が出土。津臣関連の氏寺跡か。
史跡	真金一里塚 (まがねいちりづか) 北区吉備津	昭和3年 3月24日 (1928)	国	江戸時代の山陽道(西国街道)の一里塚。旧道を挟んで黒松を植えた北塚、榎木を植えた南塚が対をなして残る。
史跡	高松城跡 (たかまつじょうあと) 北区高松ほか	昭和4年 12月17日 (1929)	岡山市ほか	天正10年(1582)の中国役の主戦場となった城跡。羽柴秀吉の水攻めで著名。平城で郭の土壇と水攻め築堤の一部が残る。
史跡	牟佐大塚古墳 (むさおおつかこふん) 北区牟佐	昭和5年 2月28日 (1930)	国	古墳時代後期の吉備地方三大巨石墳の一つ。円墳。全長18mの横穴式石室に浪形石(貝殻石灰岩)の家形石棺を安置。
史跡	幡多廃寺塔跡 (はたはいじとうあと) 中区赤田	昭和19年 11月7日 (1944)	国	県下最大の塔心礎。発掘の結果、寺院跡は白鳳時代後半から平安時代後半まで存続。寺域は東西123m、南北128mと推定。
史跡	神宮寺山古墳 (じんぐうじやまこふん) 北区中井町一丁目	昭和34年 5月13日 (1959)	天計神社 墓地管理組合	古墳時代前期の大型前方後円墳。吉備地方では珍しく沖積地に立地。全長150m、後円部高13m。鉄器類が出土。
史跡	津島遺跡 (つしまいせき) 北区いずみ町	昭和46年 1月5日 (1971)	岡山県	岡山平野の初期農耕を示す縄文晩期から古墳時代の集落遺跡。弥生時代前期の水田が居住地と一体的に検出されている。
史跡	賞田廃寺跡 (しょうだはいじあと) 中区賞田	昭和47年 3月16日 (1972)	岡山市	備前国最古の寺院で飛鳥時代末期に創建され室町時代に廃絶。盛期の奈良時代後半には東西二塔が壇上積基壇で飾られる。

史跡	尾上車山古墳 (おのうえくるまやまこふん) 北区尾上	昭和47年 7月19日 (1972)	岡山市	古墳時代前期の大型前方後円墳。築造当寺は入江に面した臨海性の古墳。全長約150m。三段築成で古式の様相を示す。
史跡	浦間茶臼山古墳 (うらまちゃうすやまこふん) 東区浦間	昭和49年 11月25日 (1974)	岡山市ほか	古墳時代前期の大型前方後円墳。全長138m。前方部が撥形に開き古式の様相を示す。勾玉・銅鏃・鏡・特殊器台形埴輪が出土。
史跡	岡山城跡 (おかやまじょうあと) 北区丸ノ内二丁目ほか	昭和62年 5月30日 (1987)	岡山市ほか	16世紀末に宇喜多秀家が築城した梯郭式の平山城。寛永9(1632)年には池田光政が移封され明治維新まで池田家の居城。
史跡	岡山藩主池田家墓所 (おかやまはんしゅいけだけぼしょ) 中区円山ほか	平成10年 4月8日 (1998)	曹源寺ほか	岡山藩主池田家の墓所と菩提寺。元禄11(1698)年建立。広大な境内に曹源寺の禪宗伽藍を中心に他宗派の塔頭も配置する。
史跡	大廻小廻山城跡 (おおめぐりこめぐりさんじょうあと) 東区草ヶ部ほか	平成17年 3月2日 (2005)	岡山市ほか	七世紀後半の白村江の戦い後に築城されたとする説が有力な古代山城。発掘調査の結果、土塁、石塁、木戸、水門などを確認。
史跡	彦崎貝塚 (ひこざきかいづか) 南区彦崎	平成20年 3月28日 (2008)	岡山市	縄文前期から晩期にかけての大規模な貝塚。保存が良好で重層的に形成された貝層をはじめ屈葬人骨や獣骨・魚骨が出土。
特別名勝	岡山後楽園 (おかやまこうらくえん) 北区後楽園	大正11年 3月8日 (1922)	岡山県	元禄13年(1700)に完成した岡山城の庭園。初め茶園と称す。典型的な大名庭園で林泉回遊式になり、優美で格調高い造形。
特別天然記念物	タンチョウ (たんちょう) 地域を定めず(北区後楽園)	昭和27年 3月29日 (1952)		ツル科の鳥。頭部は赤く頸や風切羽の一部は黒色。絶滅危惧種。後楽園内で飼育している。
特別天然記念物	オオサンショウウオ (おおさんしょううお) 地域を定めず	昭和26年 6月9日 (1951)		山地の渓流域に生息。夜行性で夜になると巣穴を出て魚類やカエルなどを捕食。生後3～5年で成体となる。
天然記念物	アユモドキ (あゆもどき) 地域を定めず	昭和52年 7月2日 (1977)		日本固有のドジョウ科の淡水魚。最も原始的な形質を遺し、系統分類学上からも貴重な希少種。旭川・吉井川の下流水系に生息。

【国指定重要無形民俗文化財】

種別	名称(ふりがな) 所在地	指定年月日 (西暦)	保護団体 (管理者)	概要
無形民俗 文化財	西大寺の会陽 (さいだいじのえよう) 東区西大寺中三丁目	平成28年 3月2日 (2016)	西大寺会陽 奉賛会	正月に行われる修正会の結願の行事。 本堂で投下される宝木を奪い合う伝統行 事で、室町時代の護符の奪い合いが起 源。

【国指定重要無形文化財】

種別	名称(ふりがな) 所在地	認定年月日 (西暦)	保持者	概要
無形文化財 (総合認定)	能楽 太鼓方 金春流 (のうがく たいこかた こんばるりゅう)	平成13年 7月12日 (2001)	梶谷義男	
無形文化財 (総合認定)	能楽 シテ方 観世流 (のうがく してかた かんぜりゅう)	平成16年 9月2日 (2004)	藤井千鶴子	

2 県指定文化財

【県指定重要文化財】

種別	名称(ふりがな) 所在地	指定年月日 (西暦)	所有者 (管理者)	概要
建造物	今村宮本殿 (いまむらぐうほんでん) 北区今四丁目	昭和30年 3月18日 (1955)	今村宮	本殿は元和9年(1623)の再建で、荘重華麗な桃山様式の三間社流造、檜皮葺。今村宮は天正8年(1580)当地に移された。
建造物	安住院多宝塔 (あんじゅういんたほうとう) 中区国富三丁目	昭和31年 4月1日 (1956)	安住院	寛延4年(1751)建立。三間多宝塔、本瓦葺、宝形造。亀腹を伴う上層は円筒形の軸を組む。後楽園の借景として有名。
建造物	安住院仁王門 (あんじゅういんにおうもん) 中区国富三丁目	昭和31年 4月1日 (1956)	安住院	康正2年(1456)建立。入母屋造、本瓦葺の三間一戸の楼門。総丹塗りで「瓶井の赤門」と称す。瓶井山禅光寺の仁王門。
建造物	金山寺護摩堂 (きんざんじごまどう) 北区金山寺	昭和31年 4月1日 (1956)	金山寺	天正3年(1575)の再建。単層入母屋造、本瓦葺。桁行三間、梁間四間。向拝の正面に豪華で精巧な装飾がある。
建造物	旧足守藩侍屋敷遺構 (きゅうあしもりはんさむらいやしきいこう) 北区足守	昭和31年 4月1日 (1956)	岡山市	足守藩木下家の国家老の屋敷。母屋・長屋門・内蔵・便所・湯殿・土蔵・庭園が良好に残る。江戸時代中期と推定される。
建造物	池田忠継廟 (いけただただつぐびょう) 南区浦安本町	昭和34年 1月13日 (1959)	清泰院	慶長20年(1615)17才で没した初代藩主池田忠継の廟。昭和53年(1978)小橋町から現地に移転。解体時に棟札、守護札を発見。
建造物	吉備津彦神社本殿 (きびつひこじんじゃほんでん) 北区一宮	昭和43年 4月19日 (1968)	吉備津彦神社	備前国の一宮。元禄10年(1697)の再建。桁行三間、梁間二間の檜皮葺流造の三間社。藩主が願主の端正な姿。
建造物	吉備津神社回廊 (きびつじんじゃかいろう) 北区吉備津	昭和51年 3月27日 (1976)	吉備津神社	本殿・御供殿・御釜殿等の神殿を繋ぐ総延長398mの回廊。両下造、本瓦葺。完成は天正年間(1573～1592)。
建造物	大光寺霊廟 (だいこうじれいびょう) 北区足守	昭和52年 4月8日 (1977)	大光寺	足守藩主木下家の菩提寺で三代目利当が創建。桁行三間、梁間三間の単層造、棧瓦葺。簡素な造作。元禄年間の建築と推定。
建造物	日応寺番神堂 (にちおうじばんじんどう) 北区日応寺	昭和43年 4月19日 (1968)	日応寺	江戸時代初期の建築様式を良く伝える。桁行三間、梁間三間、単層、入母屋造茅葺。箱棟を上げる。
建造物	西大寺三重塔 (さいだいじさんじゅうのとう) 東区西大寺中三丁目	平成3年 4月5日 (1991)	西大寺	延宝6年(1678)の建立。三間、三重、本瓦葺。総高22.1m。棟高15.9m。外観は簡素ながら端正なたたずまいをなしている。
建造物	金山寺三重塔 (きんざんじさんじゅうのとう) 北区金山寺	平成4年 4月3日 (1992)	金山寺	天明8年(1788)の建立。三間、三重、本瓦葺。総高26.3m。江戸時代中期の洗練された塔建築で、古相を伝える。

建造物	玉井宮東照宮本殿 (たまいぐうとうしょうぐうほんでん) 中区東山一丁目	平成12年 3月28日 (2000)	玉井宮東照宮	正保 2年(1645)の建築。桁行3間、梁間2間の入母屋造、銅版葺。江戸時代初期の優秀な神社建築。端正な姿を示す。
建造物	児島湾開墾第一区の樋門群 (こじまわんかいこんだいいっくのひもんぐん) 南区西高崎ほか	平成20年 3月7日 (2008)	高崎土地改良区 岡山県	明治32年(1899)に開始された児島湾干拓事業で築造された樋門群。藤田組顧問技師笠井愛次郎の設計とされる。
建造物	如法寺無量寿院本堂 (によほうじむりょうじゅいほんどう) 東区広谷	平成26年 3月4日 (2014)	無量寿院	明和5年(1768)の再建であるが、14世紀代の五間仏堂の部材を再利用しており、中世寺院の意匠がうかがえる建物として貴重。
建造物	安住院本堂 (あんじゅういんほんどう) 中区国富三丁目	平成30年 3月6日 (2018)	安住院	慶長6年(1601)に建立され、寛政12年(1800)に現地へ移転。五間六面、入母屋造、本瓦葺。一山の総本堂で桃山様式。
建造物	吉備津彦神社 渡殿・釣殿・祭文殿・軒廊・拝殿・神饌所 六棟 (きびつひこじんじゃ わたりでん つりでん さいもんでん こんろう はいでん しんせんじょ) 北区一宮	令和7年 3月18日 (2025)	吉備津彦神社	内務省神社局が造営に関与した昭和初期の大規模社殿。和様を中心に古式を重視した造りであるが、各所に近代的デザインを配し、鉄筋コンクリートを使用するなど、近代的な特徴を示している。
建造物 (石造美術)	大光院の康永四年法華題目石 (だいこういんのこうえいよねんほっけ だいもくいし) 中区円山	昭和30年 7月19日 (1955)	大光院	康永4年(1345)銘。総150cmの笠塔婆。塔身に大覚僧正筆と伝えられる髭題目を薬研彫りにし、背面に造立趣旨と記念銘を刻む。
建造物 (石造美術)	石造宝塔 (せきぞうほうとう) 東区吉井	昭和34年 3月27日 (1959)	地区	鎌倉時代後期の造立と推定。花崗岩製。総高282cm。丁寧な造りで形も整っている。後鳥羽上皇の供養塔との伝承がある。
建造物 (石造美術)	松山長昌寺地藏石仏 (まつやまちょうしょうじじぞうせきぶつ) 北区大安寺西町	昭和39年 5月 6日 (1964)	地区	応永19年(1412)に完成。花崗岩に彫られた磨崖仏。花頭窓風の龕部に地藏菩薩立像を半肉彫りに陽刻。両脇に銘を記す。
建造物 (石造美術)	石造鳥居 (せきぞうとりい) 東区穴廿	平成2年 4月 3日 (1990)	往来神社	延徳2年(1490)造立の豊島石製明神鳥居。総高276cm。柱に紀年銘と願主の陰刻がある。在銘豊島石製鳥居では県下最古。
建造物 (石造美術)	石造七重層塔 (せきぞうしちじゅうそうとう) 東区西大寺中三丁目	平成2年 4月3日 (1990)	西大寺	長禄2年(1524)造立の豊島石製では最古の層塔。総高215cm。軸の正面に半肉彫りの仏像、両側面に紀年銘を刻む。
建造物 (石造美術)	石造地藏菩薩立像 (せきぞうじぞうぼさつりゅうぞう) 北区建部町富沢	平成6年 4月5日 (1994)	地区	鎌倉時代の作と推定。像高205cm。花崗岩製。縦長の舟形後背に蓮華座に立つ地藏菩薩を厚肉彫りにする。県下最大級の石仏。

絵画	絹本著色十三仏図 (けんぽんちやくしよくじゅうさんぶつず) 北区後楽園	昭和34年 3月27日 (1959)	岡山県立 博物館	室町時代初期の作と推定。忌日に掛けて死者の冥福を祈る画像で、十三仏を配す。各尊とも坐像で、造像のきまりを描く。
絵画	絹本著色開山別峰国師頂相 (けんぽんちやくしよくかいざんべつぽうこくしちんぞう) 北区後楽園	昭和34年 3月27日 (1959)	松林寺 (岡山県立 博物館)	応永12年(1405)の作。頂相とは禅宗の師僧の肖像を意味し、師の印可を受けた証。円満で静かな面相を謹直に写実的に描く。
絵画	紙本淡彩世界図屏風 (しほんたんさいせかいずびょうぶ) 北区後楽園	昭和39年 5月6日 (1964)	妙覚寺 (岡山県立 博物館)	江戸時代前半に写されたものとみられる平面方角図。左右に交易地の地名、距離、商品名などが列記される。
絵画	紙本金陵山古本縁起(西大寺縁起) (しほんきんりょうさんこほんえんぎ(さいだいじえんぎ)) 北区後楽園	昭和46年 6月18日 (1971)	西大寺 (岡山県立 博物館)	永正4年(1507)の作。西大寺の縁起絵巻で、寛文元年(1661)の補巻が付く。布教のために物語を親しみやすく描写。
絵画	紙本墨画清明上河図巻 (しほんぼくがせいめいじょうがずまき) 北区後楽園	昭和47年 4月21日 (1972)	妙覚寺 (岡山県立 博物館)	中国北宋時代の作を江戸時代末期に写したもの。清明節のにぎわいを描く。
彫刻	木造阿弥陀仏如来立像 (もくぞうあみだにょらいりゅうぞう) 北区川入	昭和34年 3月27日 (1959)	真如院	宝治2年(1248)の作。像高65cm。桧の寄木造。全身素木で木地古色塗り仕上げ。胎内に墨書あり。
彫刻	木造大黒天立像 (もくぞうだいこくてんりゅうぞう) 北区後楽園	昭和44年 7月4日 (1969)	妙覚寺 (岡山県立 博物館)	室町時代の作。寄木造。像高63.6cm。袋を背負い右手は印を結んで腰に当て荷葉座に立つ。江戸時代の像とは異なる。
彫刻	木造女神像 (もくぞうじょしんぞう) 北区後楽園	昭和55年 4月8日 (1980)	個人 (岡山県立 博物館)	平安時代後期の作と推定。1号像は像高32.6cm、一木造、彫眼、彩色で彫法が豊満。2号像は像高32.1cmで1号像に準じ、温和。
彫刻	木造金剛力士立像 (もくぞうこんごうりきしりゅうぞう) 北区建部町富沢	平成6年 4月5日 (1994)	成就寺	鎌倉時代の作。寄木造。像高は阿形207.0cm。吽形205.2cm。銘はないものの慶派の正統作とみられ、極めて洗練された作風。
彫刻	能面 翁(白色尉) (のうめん おきな(はくしきじょう)) 北区後楽園	平成8年 4月2日 (1996)	七社八幡宮 (岡山県立 博物館)	室町時代後期の作と推定。面長19cm。面幅16cm。下顎の髭や両眉は失われているが、作風も優れ当初の姿を残す。
彫刻	木造伝聖観音菩薩立像 (もくぞうでんしょうかんのんぼさつりゅうぞう) 中区国富三丁目	平成12年 3月28日 (2000)	安住院	奈良時代末から平安時代初頭の県内最古級の木造。櫃の一木造鈍彫。総高101.5cm。像高95.5cm。細かく写実的な表現。
彫刻	木造阿弥陀如来坐像 (もくぞうあみだにょらいざぞう) 北区後楽園	平成14年 3月12日 (2002)	岡山県立 博物館	嘉暦4年(1329)の作。胎内銘により年号と仏師集賢の作であることが判明。天台系寺院の常行堂に安置される宝冠の阿弥陀像。

彫刻	木造千手観音菩薩坐像 (もくぞうせんじゅかんのんぼさつざぞう) 東区古都南方	平成30年 3月6日 (2018)	慈眼院	乾元3年(1302)奈良仏師覚清の作。桧の一本割刳造。造高83.0cm、彩色や漆箔の痕跡はなく、檀像風の仕上げになる。
工芸品	恒次太刀 (つねつぐたち) 北区丸ノ内二丁目	昭和30年 5月17日 (1955)	林原美術館	鎌倉時代末期の作。刃長69.7cm反り2.7cm。鎬造、庵棟。腰反りが高く、小鋒。刃文は直刃調で小丸に返り、澄肌。
工芸品	信国太刀 (のぶくにたち) 北区後楽園	昭和30年 5月17日 (1955)	個人 (岡山県立博物館)	室町時代初期の作と推定。刃長68.0cm。反り2.1cm。鎬造、庵棟。刀身に棒樋、梵字など彫刻。
工芸品	古備前鐘状水指 (こびぜんしょうじょうみずさし) 北区丸ノ内二丁目	昭和31年 4月1日 (1956)	林原美術館	天正6年(1578)の作。口径13.2cm。高さ17.5cm。全体に光沢のある濃い茶褐色に発色し、糸状の胡麻が掛かる。初期の伊部手。
工芸品	備前国長船住左近将監長光太刀 (びぜんのくにおさふねじゅうさこんしょうげんながみつたち) 北区後楽園	昭和31年 4月1日 (1956)	個人 (岡山県立博物館)	鎌倉時代中期の作。刃長67.0cm。反り2.4cm。鎬造、庵棟。姿は幅広く剛壮。刃文は直刃調で互の目。蛙子丁子交じり。
工芸品	刀 備州金次 (かたな びしゅうかねつぐ) 中区	昭和31年 4月1日 (1956)	個人	明徳4年(1393)の作。刃長73.8cm。反り2.5cm。鎬造、庵棟。姿は剛健で踏ん張りがある。刃文は直刃調の小互目に丁子。
工芸品	備前焼壺 (びぜんやきつぼ) 北区後楽園	昭和31年 9月25日 (1956)	岡山県立博物館	慶長15年(1610)銘。高さ29.4cm。口径16.3cm。胴径25.7cm。焼成が良好で赤褐色に焼締まる。波状の施紋をほどこす波状紋壺。
工芸品	刀 無銘(青江物) (かたな むめい(あおえもの)) 北区丸ノ内二丁目	昭和32年 11月5日 (1957)	林原美術館	鎌倉時代初期の作と推定。刃長68.1cm。反り2.4cm。鎬造、庵棟。刃文は中直刃、小紋、沸つき、逆ごころ。
工芸品	太刀正恒(古青江) (たちまさつね(こあおえ)) 北区後楽園	昭和32年 11月5日 (1957)	岡山県立博物館	鎌倉時代初期の作と推定される古青江派の作。刃長73.1cm。反り2.5cm。鎬造、庵棟。姿は腰反りが強く、小鋒で優美。
工芸品	真葛作 楠溪下絵染付手付樽 (まくずさく なんけいしたえそめつけてつけたる) 北区天神町	昭和32年 11月5日 (1957)	個人 (岡山県立美術館)	江戸時代末期の作。岡山藩家老伊木三猿斎の御用窯(虫明焼)で、楠溪の下絵を京焼の名工真葛が焼く。酒注樽。青色染付画。
工芸品	短刀 備中国住次吉 (たんとう びつちゅうのくにじゅうつぐよし) 北区後楽園	昭和34年 1月13日 (1959)	個人 (岡山県立博物館)	貞治2年(1363)の作。刃長30.6cm。平造り三つ棟。刃文は直刃調で互目、湾れ交じり筋。
工芸品	行道面 (ぎょうどうめん) 北区後楽園	昭和34年 3月27日 (1959)	吉備津神社 (岡山県立博物館)	鎌倉時代末の作と推定。面長22.0cm。幅18.0cm。行動面は浄土信仰の来迎会の行事に使用。面は菩薩面で一木彫薄づくり。
工芸品	木瀬浄阿弥作円鏡 (もくせじょうあみさくえんきょう) 北区後楽園	昭和34年 3月27日 (1959)	葦守八幡宮 (岡山県立博物館)	慶長12年(1607)の作。径23.1cm厚さ0.5cm。青銅製。足守藩主木下家の寄進で葦守八幡宮のご神体。薄手造りで古式を示す。

工芸品	備前焼四耳壺 (びぜんやきしじつぼ) 北区後楽園	昭和34年 3月27日 (1959)	岡山後楽園	天正18年(1590)の作。口径13.1cm、高さ30.1cm。桃山時代の剛壮な作風になる優品。茶壺と推定され、両肩に十の陶印。
工芸品	梵鐘 (ぼんしょう) 北区日応寺	昭和34年 3月27日 (1959)	日応寺	永和3年(1377)の作。口径52.0cm、高さ91.0cm。青銅製。小振りの形姿・鑄上がりとともに優れる。作者と紀年銘を陰刻する。
工芸品	梵鐘 (ぼんしょう) 北区下高田	昭和34年 3月27日 (1959)	上願寺	正中2年(1325)の作。口径46.9cm、高さ77.9cm。青銅製。小振りで胴張りのきいた形姿、鑄上がりの優れたもの。
工芸品	池田忠雄墓所鉄灯台 (いけただだかつぼしよてつとうだい) 南区浦安本町	昭和34年 3月27日 (1959)	清泰院	寛永9年(1632)の作。総高222cm。池田忠雄の乳母の寄進。作者の藤原国信は桃山様式を伝える江戸初期の名工。
工芸品	梵鐘 (ぼんしょう) 北区後楽園	昭和34年 3月27日 (1959)	妙覚寺 (岡山県立博物館)	建長4年(1252)金剛寺の鐘として鑄造。後、徳王寺に移り、高松城水攻めの陣鐘となり、妙玄寺から妙覚寺に移る。「六遷の鐘」
工芸品	刀 銘長曾弥興里入道帟徹 (かたな めいながそねおきさとにゅうどうこてつ) 北区後楽園	昭和35年 4月26日 (1960)	個人 (岡山県立博物館)	江戸時代中期の新刀の名作。刃長71.0cm。反り1.7cm。鎬造、庵棟。刃文は直刃調で小沸つき、匂深く互目入り。
工芸品	銅版法華經 (どうばんほけきょう) 北区後楽園	昭和37年 4月3日 (1962)	妙覚寺 (岡山県立博物館)	保延7年(1141)銘。大分県豊後高田市長安寺に伝わる経塚遺品のうちの一枚。縦20.9cm。横18.8cm。厚0.3cm。
工芸品	樋蒔絵衛府太刀拵 (ひまきええふたちこしらえ) 北区後楽園	昭和39年 12月2日 (1964)	個人 (岡山県立博物館)	江戸時代中期の公家の衛府太刀拵。太刀は室町時代初期の備前刀。拵えは鞘が樋蒔絵に紋金入り。柄が白無垢、下緒亀甲打。
工芸品	太刀 幸景 (たち ゆきかげ) 北区後楽園	昭和46年 6月18日 (1971)	岡山県立博物館	応永30年(1423)の作。刃長63.8cm。反り2.3cm。鎬造、庵棟。姿は踏張り、備前反りをなす。応永備前の代表作。
工芸品	太刀 無銘(伝福岡一文字) (たち むめい(でんふくおかいちもんじ)) 北区	昭和46年 6月18日 (1971)	個人	鎌倉時代中期の作。刃長68.9cm、反り1.5cm。鎬造、庵棟。無銘であるが作風から福岡一文字派の作と伝えられる。
工芸品	大太刀 銘備前長船秀幸 (おおだち めいびしゅうおさふねひでゆき) 北区後楽園	昭和57年 4月9日 (1982)	吉備津神社 (岡山県立博物館)	長禄3年(1459)の作。刃長127.2cm。反り2.3cm。鎬造、庵棟。秀幸は小反り派の名工。刃文、鍛元も優れ、類例が少ない。
工芸品	刀 伝雲重 (かたな でんうんじゅう) 北区	昭和57年 4月9日 (1982)	個人	南北朝時代頃の作と推定。薙刀などを改変した長巻造。刃長69.8cm。反り1.6cm。備前宇甘派の特色を示す。
工芸品	太刀 銘雲生 (たち めいうんしょう) 北区丸ノ内二丁目	昭和62年 4月3日 (1987)	岡山城天守閣	鎌倉時代末期の作。刃長68.4cm、反り2.2cm。鎬造、庵棟。雲生は宇甘派と呼ばれる刀工。作風は備中青江物や山城物の風情。

工芸品	唐櫃 (からびつ) 北区後楽園	平成2年 4月3日 (1990)	岡山県立 博物館	木造漆塗の、縦51.1cm×横38.9cm×高さ37.0cmの長方形の箱で計六本の足をもち蓋がつく。側面には銘文が記されており永仁2年(1294)に作とわかる。
工芸品	木造彩色菊牡丹透華鬘 (もくぞうさいしききくぼたんすかしけまん) 北区後楽園	平成3年 4月5日 (1991)	岡山県立 博物館	南北朝時代の団扇形の華鬘。材質は桧で、縦29.8cm、横34.2cm。金銅製の覆輪、総角、釣金具、垂飾が完備する遺品。
工芸品	紫糸威腹巻 (むらさきいとおどしはらまき) 北区後楽園	平成3年 4月5日 (1991)	岡山県立 博物館	室町時代中期の作と推定。胴高29.0cm、最小胴周り73.0cm。小札に革小札と鉄小札を用い、古式の形態を伝える優品。
工芸品	五鈷杵・五鈷鈴 (ごこしょ・ごこれい) 北区後楽園	平成4年 4月3日 (1992)	金山寺 (岡山県立 博物館)	鎌倉時代の作と推定。鋳銅鍍金製で、把に鬼面、鈷に獅嚙を施し、対をなす一具と見られる。杵全長19.0cm。鈴は高さ21.2cm。
工芸品	大太刀 法光 (おおだち のりみつ) 北区後楽園	平成6年 4月5日 (1994)	吉備津神社 (岡山県立 博物館)	文安3年(1446)の作。全長377.3cm、刃長226.7cm、重量13kg。鑄造、丸棟。備前長船派正系法光の作。日本最大の太刀。
工芸品	色々威腹巻 (いろいろおどしはらまき) 北区丸の内二丁目	平成29年 3月7日 (2017)	林原美術館	室町時代後期。胴高26.3cm、胴囲96.8cm、草摺高26.1cm。県内に現存する同時代の腹巻は数が限られ、保存状態が良好。
工芸品	藍韋威胸緋腹巻 (あいがわおどしむねひはらまき) 北区丸の内二丁目	平成29年 3月7日 (2017)	林原美術館	室町時代後期。胴高25.8cm、胴囲93.5cm、草摺高24.0cm。後世の補修を受けておらず室町時代の姿をよく伝えている。
工芸品	鉄黒漆阿古陀形五十八間総覆輪筋兜 (てつくろうるしあこたなりごじゅうはちけんそうふくりんすじかぶと) 北区丸の内二丁目	平成29年 3月7日 (2017)	林原美術館	室町時代後期。兜鉢前後径27.7cm、左右径21.1cm、深さ12.3cm。一部に欠損があるものの、作りは精緻で、筋兜の優品として貴重。
工芸品	刀 銘備前国長船住人横山上野大掾藤原祐定 奉寄進於当国一宮大明神者也寛文六年丙午年正月十九日 (かたな めいびぜんこくおさふねじゅうにんよこやまこうづけのだいじょうふじわらすけさだ とうこくいちのみやだ いみょうじんにおいてきしんたてまつるものなり かんぶんろくへいごねんしょうがつじゅうくにち) 北区後楽園	平成31年 3月8日 (2019)	吉備津彦神社 (岡山県立 博物館)	備前長船の上野大掾祐定の作。刃長120.3cm、反り3cm。鑄造、庵棟。祐定の最高傑作のひとつ。
工芸品	太刀 銘備中国万寿庄住左兵衛尉恒次 元徳二年十月日 (たちめいびつちゅうこくますのしょうじゅうさひょうえのじょうつねつぐ げんとくにねんじゅうがつひ) 北区丸の内二丁目	令和2年 3月13日 (2020)	ナガセヴィータ(株) (林原美術館)	青江派の刀工、左兵衛尉恒次の作で、仙台藩主伊達家に伝来した太刀。居住地・官職名・年紀が入る重要な作品。
工芸品	黒漆塗黒糸威菱綴桶側二枚胴具足 (くろうるしぬりくろいとおどしひしと じおけがわにまいどうぐそく) 北区丸の内二丁目	令和7年 3月18日 (2025)	ナガセヴィータ(株) (林原美術館)	文明年間(1469～1486)の作と推定。縦23.3cm、横260.0cm。備前国一宮で中世に催されていた神事の図解絵巻。淡彩を使用。

書跡典籍	紙本淡彩神事絵巻 (しほんたんさいしんじえまき) 北区後楽園	昭和34年 3月27日 (1959)	吉備津彦神社 (岡山県立 博物館)	文明年間(1469～1486)の作と推定。縦 23.3cm、横260.0cm。備前国一宮で中世 に催されていた神事の図解絵巻。淡彩を 使用。
書跡典籍	高麗版一切経 (こうらいばんいっさいきょう) 北区吉備津	昭和34年 3月27日 (1959)	吉備津神社	朝鮮高麗時代の経で、文禄の役に持参 されて奉納。縦40.0cm、横30.0cm。仏教 の典籍を分類別編集した叢書版元。
書跡典籍	紙本墨書連歌 (しほんぼくしゅれんが) 北区吉備津	昭和34年 3月27日 (1959)	吉備津神社	応永8年(1401)の作。縦35.0cm、横 640.0cm。吉備津神社で行われた法楽連 歌一万句の発句百句を一巻として奉納し たもの。
書跡典籍	古筆手鑑「世々の友」 (こひつてかがみ「よよのとも」) 北区丸の内二丁目	平成30年 3月6日 (2018)	林原美術館	著名な古筆の断簡を集めて折本装の帖 に編集した手鑑で、岡山藩主池田家に伝 来。奈良時代から江戸時代の断簡を貼り 込む。
書跡典籍	風葉和歌集抜書 (ふうようわかしゅうぬきがき) 北区丸の内二丁目ほか	平成30年 3月6日 (2018)	ナガセヴィータ(株) (林原美術館)ほか	風葉和歌集は鎌倉時代中期の私撰和歌 集であるが、本資料は近世前期の大名に よる文芸活動の実際を示す資料。
古文書	足利尊氏御教書 (あしかがたかうじみきょうじょ) 北区後楽園	昭和53年 4月14日 (1978)	岡山県立 博物館	将軍足利尊氏が観応元(1350)年の観応 の擾乱に際し九州で反旗を翻した足利直 冬討伐のため、河野通盛に軍勢催促した もの。
古文書	本蓮寺旧蔵文書 (ほんれんじきゅうぞうもんじょ) 北区後楽園	平成14年 3月12日 (2002)	岡山県立 博物館	邑久郡牛窓・本蓮寺に旧蔵。鎌倉末の 正安2年(1321)から、室町・戦国期を中 心に田地・畑地の売券が多数を占める。
古文書	豊楽寺文書 (ぶらくじもんじょ) 北区後楽園	平成19年 3月16日 (2007)	豊楽寺 (岡山県立 博物館)	中世の寄進状や売券など寺領に関する 文書を中心に、赤松氏や山名氏など室町 幕府の有力大名の一族が発した文書な ど。
古文書	池田光政日記 (いけだみつまさにつき) 北区丸の内二丁目	平成27年 3月6日 (2015)	ナガセヴィータ (株) 林原美術館 (林原美術館)	岡山藩主池田光政の寛永14年(1637)か ら寛文9年(1669)までの日記20冊と別巻1 冊。池田光政の思想・行動の貴重な資 料。

歴史資料	岡山藩学校および閑谷学校扁額類 (おかやまはんがくおよびしずたにがっ こうへんがくるい) 北区丸の内二丁目	平成28年 2月5日 (2016)	林原美術館	江戸時代前期の書家佐々木志頭磨の揮毫した「学校」「校門」の扁額、及び三副の書。藩学及び閑谷学校に関する貴重な資料。
歴史資料	紙本著色坤輿万国全図屏風 (しほんちゃくしよくこんよばんこくぜんずびょうぶ) 北区丸の内二丁目	令和2年 3月13日 (2020)	林原美術館	イタリア人宣教師マテオ・リッチが作成、刊行した世界全図の模写を六曲一隻の屏風に仕立てる。岡山藩主池田家の伝来品。
考古資料	石枕 (せきちん) 北区後楽園	昭和54年 3月27日 (1979)	岡山県立博物館	備前市に所在する前方後円墳の天神山古墳出土。縦30.9cm。横52.0cm。砂質凝灰岩製の精巧な作。上面に朱付着。
考古資料	袈裟襷文銅鐸 (けさだすきもんどうたく) 北区後楽園	平成3年 4月5日 (1991)	岡山県立博物館	弥生時代中期。昭和25年に鳥坂から出土。高さ42.5cm、下部の長径22.8cm、短径13.9cm。中型の扁平紐式六区袈裟襷文。
考古資料	袈裟襷文銅鐸 (けさだすきもんどうたく) 北区後楽園	平成3年 4月5日 (1991)	安仁神社 (岡山県立博物館)	明治時代に安仁神社裏山から出土したと伝えられる。高さ31.5cm、下部の長径16.0cm、短径10.5cm。扁平紐式四区袈裟襷文。
考古資料	袈裟襷文銅鐸(神明遺跡出土) (けさだすきもんどうたく) 北区西花尻	令和2年 3月13日 (2020)	岡山県古代吉備文化財センター	総社市神明遺跡の発掘調査で出土した、扁平紐式四区袈裟襷文銅鐸。高さ31.6cm。鈕に流水文が施される希少な作。
考古資料	恩原1遺跡・恩原2遺跡出土石器(恩原遺跡群出土) (おんばらいちいせき・おんばらにいせきしゅつどせっき) 北区津島中	令和4年 3月11日 (2022)	岡山大学	岡山県鏡野町の恩原遺跡群から出土した石器群。複数の文化層から出土した本資料は、旧石器時代の生活様式や人の長距離移動を復元できる資料として重要。

【県指定記念物】

種別	名称(ふりがな) 所在地	指定年月日 (西暦)	所有者 (管理者)	概要
史跡	撫川城跡 (なつかわじょうあと) 北区撫川	昭和32年 5月13日 (1957)	岡山市	現況の遺構は江戸時代初頭の庭瀬藩居城の一郭を旗本知行所としたもの。野面積石垣と周濠が良好に残る。
史跡	徳倉城跡 (とくらじょうあと) 北区御津河内	昭和33年 4月10日 (1958)	個人	中世から近世初頭にかけての山城。遠藤山の山頂にあり、本丸を中心に石垣が残る。関ヶ原合戦後に廃城となる。
史跡	坂古田古墳 (さこたこふん) 北区平山	昭和34年 3月27日 (1959)	岡山県ほか	古墳時代前期の前方後円墳。全長約150m。後円部径84m。2段築成を示す。背後に小型の円墳、方墳があった。
史跡	伝賀陽氏館跡 (でんかやしやかたあと) 北区川入	昭和34年 3月27日 (1959)	個人	在地豪族賀陽氏の鎌倉時代の居館跡。土塁で囲まれた方形土壇と周濠跡が良好に残されていたが上部の大半を失う。
史跡	緒方洪庵誕生地 (おがたこうあんたんじょうち) 北区足守	昭和34年 3月27日 (1959)	岡山市	江戸時代末期の蘭方医で大坂で適塾を開設した緒方洪庵の生誕地。洪庵は足守藩士の子で、足守で種痘を実施した。
史跡	木下利玄生家 (きのしたりげんせいか) 北区足守	昭和34年 3月27日 (1959)	岡山市	白樺派の歌人木下利玄の生家。利玄は最後の藩主である利恭の甥で後に宗家を継ぐ。生家は藩陣屋の一角に所在。
史跡	備前国庁跡 (びぜんこくちょうあと) 中区国府市場	昭和34年 3月27日 (1959)	国長宮	備前国府の国衙中心想定地。周辺に国長・国府市場など関連地名が残る。
史跡	浄土寺 (じょうどじ) 中区湯迫	昭和34年 3月27日 (1959)	浄土寺	奈良時代開基と伝えられる古刹。鎌倉時代初頭に東大寺大勧進・重源が庶民施療のため国府に建てた大湯屋跡と推定。
史跡	倉安川吉井水門 (くらやすがわよしすいもん) 東区吉井	昭和34年 3月27日 (1959)	岡山市	吉井川と旭川を繋ぐ水運灌漑兼用の運河として延宝7年(1679)完成。吉井川水門は取水口・舟溜まり・出口水門・番所跡が残る。
史跡	松田元成及び大村盛恒墓所 (まつだもとなりおよびおおむらもりつねぼしょ) 東区瀬戸町塩納	昭和34年 3月27日 (1959)	個人	金川城主松田元成が、三石城攻略の途次手傷を負い、この地で自刃し、その家臣である大村盛恒もそれに殉じた。
史跡	藤原成親遺跡 (ふじわらのなりちかいせき) 北区吉備津	昭和35年 4月26日 (1960)	福田海本部	鹿ヶ谷の変に連座し有木別所に配流された成親はこの地で暗殺された。供養の層塔が立ち付近には高麗寺の礎石が残る。

史跡	高松城水攻め鳴谷川遺跡 (たかまつじょうみずぜめなるたにがわいせき) 北区長野	昭和39年 12月2日 (1964)	岡山市	天正10年(1582)の高松城水攻め時に、秀吉側がこの地の谷川から水を引こうとしたと伝えられる。工事は未完に終わる。
史跡	竹内流古武道発祥の地 (たけのうちりゅうこぶどうはっしょうのち) 北区建部町角石谷	昭和51年 3月27日 (1976)	個人	天文元年(1532)美作国久米北条郡埴和郷の一の瀬城主竹内中務大輔久盛が創始した古武道竹内流の発祥地。
史跡	犬養家旧宅 (いぬかいけきゅうたく) 北区川入	昭和52年 4月8日 (1977)	岡山県	第29代内閣総理大臣犬養毅の生誕地。毅は安政2年(1855)に大庄屋の次男として生誕。5・15事件で暗殺された。
史跡	田原井堰跡 (たばらいぜきあと) 東区瀬戸町森末ほか	昭和34年 3月27日 (1959)	田原用水組合	津田永忠が寛文6年(1666)から元禄年間にかけて築造した用水路。瀬戸町内では高まりを通すため「切抜き」工事が行われた。
名勝	近水園 (おみずえん) 北区足守	昭和34年 3月27日 (1959)	岡山市	足守藩主の庭園で陣屋に続く小堀遠州流の池泉回遊式で江戸時代前期の作庭。宝永5(1708)年の吟風閣が建つ。
天然記念物	宗堂の桜 (そうどうのさくら) 東区瀬戸町宗堂	昭和31年 4月1日 (1956)	個人	特殊の八重桜で、「しろやまざくら」の赤芽複弁の一新品種。花卉が約60枚も数えられ、屈曲反転する特性は類例がない。
天然記念物	奥迫川の桜 (おくはざかわのさくら) 南区奥迫川	平成18年 3月17日 (2006)	個人	標高約150mの急斜面に生育し、樹高約20m、根元周囲約8.5m。県内屈指の大きさを誇り、開花時期には見事な花を咲かせる。

【県指定重要有形民俗文化財】

種別	名称(ふりがな) 所在地	指定年月日 (西暦)	所有者 (管理者)	概要
有形民俗 文化財	かしき網漁法コレクション (かしきあみぎょほうこれくしょん) 北区後楽園	昭和53年 4月14日 (1978)	岡山県立 博物館	児島湾で古くから行われている定置網漁法の一つで、明治から昭和初年にかけての用具23種87点が収集されている。
有形民俗 文化財	児島湾漁撈回漕図 (こじまわんぎょうろうかいそうず) 北区後楽園	昭和60年 4月2日 (1985)	御前神社 (岡山県立 博物館)	寛政10年(1798)の作。当時の児島湾の干潟や漁撈の様相、古地形さらには回船等をも忠実に描写した貴重な民俗資料。

【県指定重要無形民俗文化財】

種別	名称(ふりがな) 所在地	指定年月日 (西暦)	保護団体等 (管理者)	概要
無形民俗 文化財	志呂神社御供 (しろじんじゃごくう) 北区建部町下神目	昭和32年 5月13日 (1957)	志呂神社	「京尾御御供」と呼ばれる秋祭りで、久米南町京尾の氏子から供えられる神饌行事でその製法は厳重なしきたりで行われる。
無形民俗 文化財	宮内踊 (みやうちおどり) 北区吉備津	昭和34年 3月27日 (1959)	宮内踊保存会	吉備津神社の門前町の宮内で毎年7月31日の夜に行われる盆踊り。踊りの形は宝暦年間に花形役者が地元の芸者に伝えた。
無形民俗 文化財	吉備津彦神社の御田植祭 (きびつひこじんじゃのおたうえさい) 北区一宮	昭和39年 1月16日 (1964)	吉備津彦神社	毎年8月2・3日に行われる五穀豊穡を祈る行事。御斗代神事と御福神事があり、中世から行われていたことが絵巻にある。
無形民俗 文化財	建部祭り (たけべまつり) 北区建部町建部上	平成6年 4月5日 (1994)	七社八幡宮 ほか	毎年10月15日に建部郷内八社の神輿が七社八幡宮に参集する祭り。古式に則り「総裁判」の指図で厳粛かつ賑々しく行われる。

3 市指定文化財

【市指定重要文化財】

種別	名称(ふりがな) 所在地	指定年月日 (西暦)	所有者 (管理者)	概要
建造物	金山寺山門 (きんざんじさんもん) 北区金山寺	昭和40年 7月30日 (1965)	金山寺	正保2年(1645)の建立。入母屋造、本瓦葺、三間一戸の楼門。下層の桁行6.12m、梁間1.73m。上層を下層より少し縮める。
建造物	子安神社社殿 (こやすじんじゃしゃでん) 北区一宮	昭和49年 4月11日 (1974)	吉備津彦神社	寛文12年(1672)の建築。吉備津彦神社の摂社。本殿は単層入母屋造、銅版葺。透垣付。
建造物	吉備津彦神社随神門・同中門 (きびつひこじんじゃずいじんもん・どうちゅうもん) 北区一宮	平成10年 4月15日 (1998)	吉備津彦神社	岡山藩主池田綱政によって元禄10年(1697)頃に再建されたもの。江戸時代前期の特徴を良好に残す。
建造物	清泰院池田忠雄墓所唐門 (せいたいいいんいけただだかつぼしょからもん) 南区浦安本町	平成10年 4月15日 (1998)	清泰院	軒裏に施された装飾文様から江戸時代初期の築造とされる。規模も大きく、洗練された技法が見られ、大名墓地の門として貴重。
建造物	旧木下権之助屋敷表門(北木門) (きゅうきのしたごんのすけやしきおもてもん(きたきもん)) 北区足守	平成14年 4月10日 (2002)	岡山市	弘化3年(1846)の建築。入母屋造、本瓦葺。建物の骨格を良好に残し、正面外部の物見窓や下見板などが旧状をとどめる。
建造物	岡山神社随神門 (おかやまじんじゃずいじんもん) 北区石関町	平成16年 2月24日 (2004)	岡山神社	延享2年(1745)建立。三間一戸八脚門。切妻造本瓦葺。岡山藩直営の普請になり、空襲の被災を免れた希少な建築物。
建造物	妙教寺霊応殿本殿 (みょうきょううれいおうでんほんでん) 北区高松稲荷	平成16年 2月24日 (2004)	妙教寺	寛保元年(1741)に建立。総檜造で、彫刻を多く施した丁寧な造り。外観内部とも三間仏堂の形態をもつ稲荷社として造られた建物。
建造物	西大寺観音院本堂 (さいだいじかんのんいんほんどう) 東区西大寺中三丁目	平成16年 2月24日 (2004)	西大寺	桁行五間、梁間六間、入母屋造、向拝三間付、本瓦葺。文久3年(1863)に再建された大建築で、伝統的密教寺院本堂の最後期。
建造物	菅野八幡宮本殿 (すがのはちまんぐうほんでん) 北区菅野	平成19年 8月27日 (2007)	菅野八幡宮	寛文9(1669)年の建立。一間社流造、鉄板葺。棟札により建築年、工匠が明ら。ほかに安政4(1857)年の棟札がある。
建造物	栗村神社本殿 (くりむらじんじゃほんでん) 南区妹尾	平成19年 8月27日 (2007)	栗村神社	元禄15(1702)年の建築とみられ桁行三間、梁間二間、入母屋造、檜皮葺。本殿には建立後の改変がほとんどない。
建造物	正八幡宮本殿 (しょうはちまんぐうほんでん) 北区御津高津	平成19年 8月27日 (2007)	正八幡宮	寛永18(1641)年の建築。三間社流造、茅葺型鉄板葺。もとは長押から妻飾りに極彩色で塗装してあった。

建造物	熊野神社本殿 (くまのじんじゃほんでん) 北区御津新庄	平成19年 8月27日 (2007)	熊野神社	慶安4年(1651)建立。三間社流造、銅板葺。組物は肘木からの立ち上がり直立に近く、実年代よりも古く見せる。
建造物	素盞鳴神社本殿 (すさのおじんじゃほんでん) 北区御津高津	平成19年 8月27日 (2007)	素盞鳴神社	江戸時代初期の建立。三間社流造の本殿。向拝の出がやや大きく、身舎の組物、向拝の彫刻類妻飾りも賑やか。
建造物	旧河原家住宅主屋・離れ座敷・化粧蔵 (きゅうかわはらけじゅうたくしゅおく・はなれざしき・けしょうぐら) 北区御津紙工	平成19年 8月27日 (2007)	岡山県	主屋・離れ座敷・化粧蔵など、江戸時代後期の庄屋・大庄屋の建物群を構成。ほとんど修改築をうけていない。
建造物	成就寺三重塔 (じょうじゅじさんじゅうとう) 北区建部町富沢	平成22年 7月27日 (2010)	成就寺	明和3年(1766)焼失。40年後の文化3年(1806)初重が組み上がり、文化5年に上棟。19世紀初頭を代表する塔建築のひとつ。
建造物	和田神社本殿 (わだじんじゃほんでん) 北区建部町和田南	平成22年 7月27日 (2010)	和田神社	寛文元年(1661)造立と伝えられる中山造りの社殿。正面三間、側面二間。津山城下に先行して組物を三手先にする特徴をもつ。
建造物	熊野神社本殿 (くまのじんじゃほんでん) 北区建部町吉田	平成22年 7月27日 (2010)	熊野神社	慶長14年(1609)の創建。三間社流造、銅板葺。前方に棧瓦葺の拝殿が建ち、本殿とは簡単な幣殿でつながる。
建造物	日高神社本殿 (ひだかじんじゃほんでん) 北区建部町和田南	平成22年 7月27日 (2010)	日高神社	寛政10年(1798)造立。正面三間、側面二間。美作南端にあたり、美作国で普遍的な入母屋造妻入の屋根形式。
建造物	七社八幡宮本殿 (しちしゃはちまんぐうほんでん) 北区建部町建部上	平成22年 7月27日 (2010)	七社八幡宮	正徳2年(1712)建築。三間社流造、銅板葺。近隣11ヶ村の氏神として崇敬を集め、「建部祭り」が開かれている。
建造物	掌善寺本堂 (しょうぜんじほんどう) 南区郡	平成30年 3月20日 (2018)	掌善寺	鬼瓦銘から元禄4年(1691)の建立とみられる。入母屋造平入、棧瓦葺。市内有数の方丈建築で内部の保存も良好。
建造物	掌善寺観音堂 (しょうぜんじかんのんどう) 南区郡	平成30年 3月20日 (2018)	掌善寺	元文元年(1736)建立。桁行三間梁間三間。入母屋造、棧瓦葺。切石積基壇の上に立つ方三間の禪宗様仏堂。
建造物	天神宮本殿 (てんじんぐうほんでん) 北区牟佐	平成30年 3月20日 (2018)	天神宮	17世紀後半の建築と推定。屋根は正面を入母屋造、背面は切妻造とされ、向拝を大きく突き出す中山造の影響がみられる。

建造物	浄土寺本堂 (じょうどじほんどう) 中区湯迫	令和2年 2月25日 (2020)	浄土寺	宝永元年(1704)建立。桁行三間、梁間四間、入母屋造平入。棟札は寛永12年(1635)以後、江戸期のもの7枚。来歴が明瞭である。
建造物	岩熊八幡宮本殿 (いわくまはちまんぐうほんでん) 東区百枝月	令和4年 4月26日 (2022)	岩熊八幡宮	18世紀前期頃の建立。桁行三間、梁間二間、入母屋造平入。金幣には寛延3年(1750)の銘がある。
建造物	玉井宮東照宮隨身門 (たまいぐうとうしょうぐうずいしんもん) 中区東山	令和4年 12月20日 (2022)	玉井宮東照宮	18世紀前期頃の建立。本殿・拝殿とほぼ中軸線を揃えて立つ切妻造の八脚門。天井は三棟造、対応する妻飾は二重虹梁臺股となる。
建造物	玉井宮東照宮摂社坂中荒神社 (たまいぐうとうしょうぐうせつしゃさかなかこうじんしゃ) 中区東山	令和4年 12月20日 (2022)	玉井宮東照宮	一間社隅木入春日造。隨身門のすぐ内側に立つ本瓦葺の小社。内部の厨子に元禄2年(1689)の墨書あり。保存状態も良好である。
建造物	大福寺表門 (だいふくじおもてもん) 中区御成町	令和6年 12月24日 (2024)	大福寺	敷地正面に立つ小規模な薬医門。平成28年(2016)に行われた屋根修理の際に享保17(1732)年に再建されたことを記した木札が発見された。
建造物	大福寺客殿 (だいふくじきゃくでん) 中区御成町	令和6年 12月24日 (2024)	大福寺	以前は本堂として利用されていた。17世紀後期の建立と考えられる。一部に改造がみられるものの、本体部分は良好な状態で維持・管理されている。
建造物 (石造美術)	比丘尼妙善題目石 (びくにみょうぜんだいもくいし) 中区円山	昭和42年 11月7日 (1967)	大光院	応永18年(1411)の造立。石灰岩製の笠塔婆。総高153cm。正面に題目、背面に紀年を刻む。宝珠は別個体のもの。
建造物 (石造美術)	道讃禅定門石燈籠 (どうさんぜんじょうもんいしとうろう) 北区法界院	昭和42年 11月7日 (1967)	法界院	慶長3(1598)年の造立。豊島石製。全高222cm。竿に造立趣旨・紀年・施主を刻む。古相を示し、この時期の貴重な在銘品。
建造物 (石造美術)	高蔵大明神鳥居扁額 (たかくらだいみょうじんとりいへんがく) 北区牟佐	昭和43年 12月26日 (1968)	高蔵神社	正慶元年(1332)の作。花崗岩製。縦73cm、横48cm。裏面に年号と願主名が薬研彫りされ、中世も上道氏の祭祀が続くことを示す。
建造物 (石造美術)	辛川市場法華題目石 (からかわいちばほっけだいもくいし) 北区西辛川	昭和47年 3月24日 (1972)	大覚教会	室町時代中期の作と推定。全高125.0cmの石灰岩製笠塔婆。四面に題目を刻む。この地の妙善寺に所在していたと伝えられる。
建造物 (石造美術)	矢田の宝篋印塔 (やたのほうきょういんとう) 北区山上	昭和53年 1月20日 (1978)	個人	貞治5年(1366)造立。花崗岩製。全高173cm。基礎に格狭間を刻み、塔身は二面に像容を刻む。笠は時期の特徴をよく示す。
建造物 (石造美術)	法鮮銘五輪塔 (ほうせんめいごりんとう) 中区徳吉町一丁目	昭和58年 4月13日 (1983)	徳与寺	文禄3年(1594)造立。豊島石製。全高338cm。地輪に年銘と法名を刻む。宇喜多秀家の生母の墓とする俗説がある。
建造物 (石造美術)	池田忠雄墓塔及び関連墓塔三基 (いけただだかつぼとうおよびかんれんぼとうさんき) 南区浦安本町	昭和58年 4月13日 (1983)	清泰院	寛永9年(1632)造立。藩主忠雄の無縫塔と殉死家臣の板碑型墓塔及び正室の石製五重塔。後世の供養塔が付く。

建造物 (石造美術)	線刻不動明王石仏 (せんこくふどうみょうおうせきぶつ) 南区阿津	平成4年 8月27日 (1992)	宝積院	文明13年(1481)造立。線刻の石仏で、石材は花崗岩の自然石。不動明王の姿は絵画的描写に優れる。
建造物 (石造美術)	箕地延命地蔵 (みのちえんめいじぞう) 北区建部町西原	平成22年 7月27日 (2010)	地区	元徳2年(1330)造立で厚肉彫りの原形を良く残す。14世紀の延命地蔵としての典型例で、峠の民間信仰を伝える石造物として重要。
建造物 (石造美術)	惣社権現石鳥居 (そうじゃごんげんいしとりい) 北区建部町角石畝	平成22年 7月27日 (2010)	個人	明和5年(1768)造立。当初の構造を良く保つ。中世的な要素を備えた鳥居が江戸中期まで造立された事を示す作例として重要。
絵画	紙本安心禅師画像 (しほんあんじんぜんじがぞう) 北区後楽園	昭和30年 11月 1日 (1955)	岡山県立博物館	桃山時代の作と推定。戦国大名宇喜多直家の弟で富山城主の宇喜多忠家の画像。宇喜多氏の本貫地である紅岸寺に伝来。
絵画	狩野永朝絵馬 (かのうえいちょうえま) 東区西大寺中三丁目	昭和30年 11月 1日 (1955)	西大寺	明治10年(1877)作。縦4.5m、横5.2mの巨大な絵馬で観音院本堂正面に掛かる。構図は当時の会陽の様相を描写する。
絵画	司馬江漢山水図 (しばこうかんさんすいず) 北区岩井一丁目	昭和43年 12月26日 (1968)	妙応寺	寛政9年(1797)の作。絹本。縦57cm、横138.5cm。構図はおおまかであるが、洋風描写手法を採用した江漢の作品。
絵画	板絵「倭武選三十六人図」 (いたえ「やまとぶせんさんじゅうろくにんず」) 北区御津金川	平成19年 8月27日 (2007)	七曲神社	文化13(1673)年に描かれ、享保12(1727)年に修補を記す墨書が各裏面にある。史上の武人を和歌の三十六歌仙に擬えた内容。
絵画	絹本着色普賢十羅刹女図 (けんぽんちゃくしよくふげんじゅうらさつによず) 北区後楽園	平成27年 9月29日 (2015)	西大寺 (岡山県立博物館)	南北朝時代の作。法華信仰に基づく仏画で白象に乗る普賢菩薩、二人の持幡童子、唐装の十羅刹女を精緻に描く。
絵画	彭城百川筆紙本墨画前後赤壁図屏風 (さかきひやくせんひつしほんぼくがぜんこうせきへきずびょうぶ) 北区丸の内二丁目	平成28年 10月25日 (2016)	林原美術館	延享3(1746)年の作。北宋の詩人・蘇軾の『赤壁賦』を題材とした作品。県内に現存する南画として最古級。
絵画	帝釈天曼荼羅 (たいしゃくてんまんだら) 北区後楽園	令和2年 12月22日 (2020)	西大寺 (岡山県立博物館)	朝鮮・李朝時代の仏画。帝釈天を中心に天女、官人、童子を描く諸尊集会図。李朝仏画の中でも秀逸の作で、保存状態も良い。
彫刻	阿弥陀如来坐像 (あみだによらいざぞう) 東区長沼	昭和30年 11月1日 (1955)	来福寺	室町時代初期の作と推定。桧の寄木造。像高55.0cm。中空仏師作との伝承がある。本来は金箔を施された像である。
彫刻	木造阿弥陀如来立像 (もくぞうあみだによらいりゅうぞう) 南区阿津	昭和39年 9月11日 (1964)	宝積院	室町時代の作と推定。全高78.8cm。快慶の作風を匂わせた優美な姿で、胎内に鎌倉時代の右大将実氏の写経が納められる。

彫刻	木造毘沙門天立像 (もくどうびしゃもんてんりゅうぞう) 中区国富三丁目	昭和40年 7月30日 (1965)	安住院	平安時代の作と推定。櫨の一本造。全高145cm。地方の作風を示すが、造形・運刀が優秀で温和な鷹揚さを示している。
彫刻	木造聖観音立像 (もくどうしょうかんのりゅうぞう) 北区原	昭和41年 6月16日 (1966)	法万寺	鎌倉時代初期の作と推定。桂の一本造。全高84.8cm。平安時代の作風を伝え、造形・運刀が優秀でもとは秘仏とされていた。
彫刻	木造毘沙門天立像 (もくどうびしゃもんてんりゅうぞう) 北区津寺	昭和47年 3月24日 (1972)	宗蓮寺	鎌倉時代後期の作と推定。桧の寄木造。像高140cm。写実的で精巧な技法になる優秀作で、天文の修理の銘札を胎内に持つ。
彫刻	南無仏太子立像 (なむぶつたいしりゅうぞう) 東区広谷	平成7年 4月21日 (1995)	無量寿院	鎌倉時代後期の作。像高69.5cm。寄木造彩色玉眼嵌入の太子二才像で保存が良好。県下に残る太子像の中でも優品である。
彫刻	観音菩薩坐像 (かんのんぼさつぎぞう) 中区桜橋4丁目	平成19年 8月27日 (2007)	上生院	木造で墨古色彩。平安時代後期の作であるが、平安時代前期の様式を伝える。市街地域で平安仏が遺っているのは希。
彫刻	狛犬 阿形・吽形一対 (こまいぬ あぎょう・うんぎょういつつい) 北区後楽園	平成19年 8月27日 (2007)	彦崎天神社 (岡山県立博物館)	一対の木像狛犬で、阿形像の尻部内側に建武2(1335)年の墨書がある。造立年代が明らかな事例で中世の狛犬として標準作。
彫刻	熊野本地仏五尊 (くまのほんじぶつごそん) 北区御津新庄	平成19年 8月27日 (2007)	熊野神社	墨書銘から天文10(1541)年から11(1542)年の造立年代が明らかであり、熊野本地仏五尊が完存する。16世紀の基準作。
彫刻	釈迦如来立像 (しゃかにょらいりゅうぞう) 北区日応寺	令和4年 4月26日 (2022)	日応寺	鎌倉時代末期から南北朝初期の作と推定。像高94.0cm。ヒノキ材の割刳造で金箔を施し玉眼を嵌入する。全般に造像技術は高い。
工芸品	鰐口 (わにぐち) 東区長沼	昭和30年 11月 1日 (1955)	来福寺	文安3年(1446)の作。青銅製。直径36.5cm。外区の銘に「新見庄八幡宮」とあり、備中の役で羽柴秀吉方の陣鐘との伝承がある。
工芸品	青銅孔雀文馨 (せいどうくじゃくもんけい) 中区国富二丁目	昭和39年 9月11日 (1964)	普門院	室町時代の作と推定。絁16.0cm、幅14.8cm。蓮華文の撞座を中心に両側に相対する孔雀を陽出。意匠・造形ともに優秀である。
工芸品	梵鐘 (ぼんしょう) 中区小橋町二丁目	昭和42年 11月 7日 (1967)	国清寺	寛文5年(1665)の作。口径68cm。全高111cm。青銅製。伝統の内に創意性を加えた全国的優秀作品。良質。
工芸品	梵鐘 (ぼんしょう) 中区円山	昭和42年 11月 7日 (1967)	曹源寺	元禄11年(1698)の作。口径68cm。全高123cm。青銅製。朝鮮鐘の美点を取り入れた斬新さを示し、良質で当代の傑作作品。
工芸品	蓮糸絹 (はすいとときぬ) 中区湊	昭和42年 11月 7日 (1967)	仏心寺	宝暦元年(1751)の作。縦64.8cm横32.2cm。絹と蓮の繊維で織り上げた布地に藩主の池田継政が六字の名号を墨書した希少品。

工芸品	道中風呂及び洗足桶 (どうちゅうぶろおよびあらいあしおけ) 北区駅元町	昭和47年 3月24日 (1972)	個人 (岡山シティ ミュージアム)	桃山時代の作と推定。豊臣秀吉の正室(寧々)の使用品との伝承がある。当時の上流階層の習俗を示す史料として貴重。
工芸品	在銘備前焼壺 (ざいめいびぜんやきつぼ) 北区	昭和47年 3月24日 (1973)	個人	文明12年(1480)の作。全高41.0cm、口径14.5cm。四耳付壺で上半部に良好な灰釉が掛かる。この時代の在銘品として貴重。
工芸品	太刀 銘家忠 (たち めいいえただ) 東区	昭和52年 4月8日 (1977)	個人	鎌倉時代の作と推定。刃長73.5cm。鎗造、庵棟。刃文は小丁子に小乱れ交じり、小足葉入り、砂流しかかり、しみ心。
工芸品	金山寺護摩堂鰐口 (きんざんじごまどうわにぐち) 北区金山寺	平成14年 4月10日 (2002)	金山寺	應安7年(1374)3月に播磨国小犬丸保の嵩大明神のために鑄造された青銅製の鰐口。
書跡典籍	紺紙銀堺金泥経 (こんしぎんかいきんでいきょう) 南区阿津	昭和39年 9月11日 (1964)	宝積院	安貞2年(1228)の作。右大将西園寺実氏の筆。幅27.2cm、長さ27.9cm。大無量寿経中の四十八願の写経。仏像の胎内から発見。

書跡典籍	大覚僧正書状 (だいかくそうじょうしよじょう) 北区田町一丁目	昭和42年 11月 7日 (1967)	蓮昌寺	室町時代初期の書。縦21cm、横27.9cm。備前国に法華宗を広めた大覚の自筆の書状。大覚の布教活動の様相を示す原史料。
書跡典籍	新撰自註桑華蒙求木版木二四九枚及び同書三卷 (しんせんじちゅうそうかもうきゅうもくはんぎにひやくよんじゅうきゅうまいおよびどうしよさんかん) 北区駅元町	昭和47年 3月24日 (1972)	個人 (岡山シティミュージアム)	宝永7年(1710)の版。足守藩主木下氏が藩校の教科書に編纂した書。桜木製の版木249枚全部と製本が完存している。
書跡典籍	大般若經 (だいはんにやきょう) 北区駅元町	平成19年 8月27日 (2007)	熊野神社 (岡山シティミュージアム)	鎌倉時代の写本が中心となすが書体・紙質などから平安時代後期に遡るものもある。地方における経典のあり方を示す。
古文書	羽柴秀吉書簡 (はしばひでよししょかん) 南区郡	昭和40年 7月30日 (1965)	総社	天正10年(1582)の書簡。縦30.3cm、横48.5cm。鳥の子紙。高松城水攻めに際して、築堤用の縄を郡地区へ発注した書状。
古文書	備前国禅光寺仁王堂造立奉加人交名 (びぜんこくぜんこうじにおうどうぞうりゅうほうがにんきょうみょう) 中区国富三丁目	昭和43年 12月26日 (1968)	安住院	康正2年(1456)、安住院仁王門建立の奉加人892名を2幅に記載する。当事のこの地方の国人・小領主層を示す史料。
古文書	備前備中国境並びに海面ご裁許絵図 (びぜんびつちゅうくにさかいならびにかいめんごさいきよえず) 北区二日市	昭和47年 3月24日 (1972)	岡山市埋蔵文化財センター	宝暦8年(1758)の絵図。岡山藩と庭瀬藩との干拓地の境界紛争に関し、幕府の裁定の絵図。裏書きに幕閣の署名及び捺印がある。
古文書	沖新田東西之図 (おきしんでんとうざいのず) 北区二日市	平成19年 8月27日 (2007)	岡山市中央図書館	文政元年(1818)の注書があり、下方には沖新田東手・西手総廻り間数及び東大川(吉井川)13ヶ所の川幅間数を書き上げる。
古文書	旧灘崎町教育委員会所蔵文書 (きゅうなださきちょうきょういくいいんかいしよぞうもんじょ) 南区片岡	平成19年 8月27日 (2007)	岡山市灘崎歴史文化資料館	慶長9(1604)年の検地帳、新田検地帳、年貢免状のほか江戸時代の児島湾沿岸の村々の生活実態などを示す貴重な史料。
古文書	妙国寺文書 (みょうこくじもんじょ) 北区御津金川	平成19年 8月27日 (2007)	妙国寺	妙国寺が所蔵している文書で、江戸時代には禁教となっていた日蓮宗不受不施派の歴史を知るうえで貴重な資料。
古文書	西大寺文書 (さいだいじもんじょ) 北区後楽園	平成30年 3月20日 (2018)	西大寺 (岡山県立博物館)	伝来文書のうち観応2年(1351)から慶長5年(1600)までのものと元享2年(1322)の境内古図など地域の歴史を示す貴重な資料。
歴史資料	花房家史料 (はなぶさけしりょう) 北区丸ノ内二丁目	平成2年 4月 1日 (1990)	岡山城天守閣	宇喜多氏の家臣で後に徳川氏の旗本となった花房家の江戸初期の文書類と配所の旧主宇喜多秀家との音信書状類及び甲冑。

歴史資料	岡山藩主池田家関係資料 (おかやまはんしゅいけだけかんけいしりょう) 中区円山	平成16年 2月24日 (2004)	曹源寺	曹源寺には綱政以降歴代藩主の墓所が営まれ、木像や画像をはじめ、池田家に関する貴重な歴史資料が多く残される。
歴史資料	岡山藩主池田家歴代肖像及び厨子 (おかやまはんしゅいけだけきだいしょうぞうおよびずし) 中区円山	平成16年 2月24日 (2004)	曹源寺	曹源寺には歴代藩主の木像や明治以降の当主の肖像写真が厨子に納められ本堂に安置される。両者は一体となって貴重な資料。
歴史資料	経誼書院資料 (けいぎしよいんしりょう) 北区二日市	平成16年 2月24日 (2004)	岡山市中央図書館	経誼書院は豪商で町方惣年寄であった河本子恭(立軒)が屋敷内に開設した図書館。伝来する資料を「河本文庫」として整理保存。
歴史資料	石造大燈籠 (せきぞうおおとうろう) 北区一宮	平成16年 2月24日 (2004)	吉備津彦神社	安政6年(1859)造立。寄進者は城下や藩領を中心に25カ国1494件を数える。人々の信仰と岡山の石工技術を知るうえでも貴重。
歴史資料	常寿院前僧正宣胤碑伝(天満宮上棟札) (じょうじゅいんまへのそうじょうせんいんひで(てんまんぐうじょうとうふだ)) 南区彦崎	平成19年 8月27日 (2007)	天神社	修験者の常寿院前僧正宣胤が文明13(1481)年5月中旬に修行を終え作成。後に天満宮の上棟札に転用されたもの。
歴史資料	鉄盾 (てつたて) 北区駅元町	平成30年 3月20日 (2018)	岡山シティミュージアム	足守藩木下家に伝来した鉄盾で縦131.4cm、横108cm、厚さ8mmと縦132cm、横104cm、厚さ7mmの2面。大坂の陣で使用か。
考古資料	片岡家銅鐸 (かたおかけどうたく) 東区	昭和50年 8月8日 (1975)	個人	弥生時代中期。外縁付紐式四区袈裟襷文。綾杉文・斜格子文があり、古式の銅鐸の特徴を示すが出土地などは不明。
考古資料	黥面文身土偶 (げいめんぶんしんどぐう) 中区網浜	令和2年 2月25日 (2020)	岡山市埋蔵文化財センター	弥生時代後期の溝出土。頭部のみ残存。刺突と粘土塊で目鼻を立体表現。目の上下に線刻重弧文で入れ墨を表現。
考古資料	建物絵画付分銅形土製品 (たてものかいがつきふんどうがたどせいひん) 中区網浜	令和2年 12月22日 (2020)	岡山市埋蔵文化財センター	南方遺跡出土。弥生時代中期の祭祀遺物とされる分銅形土製品で、裏側に高床式倉庫の絵画を線刻する。分銅形土製品に建物絵画が描かれるのは本鈴のみ。
考古資料	鳥装人物絵画土器 (ちょうそうじんぶつかいがどき) 中区網浜	令和4年 12月20日 (2022)	岡山市御津郷土歴史資料館	新庄尾上遺跡出土。弥生時代中期の長頸壺胴部とみられる破片に鳥に扮した人物像が鋭利な工具を用いて描かれている。

【市指定記念物】

種別	名称(ふりがな) 所在地	指定年月日 (西暦)	所有者 (管理者)	概要
史跡	平賀元義由縁の地 (ひらがもとよしゆえんのち) 東区大多羅	昭和30年 11月 1日 (1955)	布施神社	幕末の国学者平賀元義の終焉関連地。元義は布施神社滞在中に不慮の死をとげる。境内に歌碑・文庫跡・墓所等が所在する。
史跡	岡山孤児院発祥の地 (おかやまこじいんはっしょうのち) 東区上阿知	昭和36年 5月 22日 (1961)	地区	社会事業家石井十次が明治20年(1887)にこの地で困窮者の子を引き取り、後の孤児救済教育の活動の発端となった。
史跡	神崎樋門(石) (かんざいひもん(いし)) 東区神崎町	昭和40年 6月30日 (1965)	地区	貞享4年(1687)と享保20年(1735)の花崗岩製樋門石。新田地帯の排水用の堀割に設置された樋門石で当時の治水状況を示す。
史跡	備前国総社 (びぜんこくそうじゃ) 中区祇園	昭和40年 7月30日 (1965)	総社宮	古代の備前国総社の後進の神社。江戸時代の本殿・釣殿・拝殿があったが随神門を残して焼失し近年再建。
史跡	加茂城二ノ丸跡 (かもじょうにのまるあと) 北区加茂	昭和47年 3月24日 (1972)	岡山市	毛利方が重視した備前・備中の境目七城のひとつで、天正10年(1582)の高松の役では秀吉方に攻められ落城。土壇が残る。
史跡	横井上お台場遺跡 (よこいおみおだいばいせき) 北区横井上	昭和47年 3月24日 (1972)	岡山市	古墳時代前期の円墳で横井盆地最大の規模。径40m、高さ3m。幕末には岡山藩が墳丘を利用して台場を構築した。
史跡	宮山西塚古墳 (みややまにしづかこふん) 東区百枝月	平成2年 4月 1日 (1990)	個人	古墳時代後期の円墳で径25m。全長13.5mの大型の横穴式石室を持ち、石室内には蓋を欠いた凝灰岩製の家形石棺が残る。
史跡	足守藩主木下家屋形構跡 (あしもりはんしゅきのしたけやかたがまえあと) 北区足守	平成14年 4月10日 (2002)	岡山市	足守藩主木下家の陣屋で、石橋の残る掘割と近水園が良好に遺存しており、大名の屋形構を伝える貴重な遺跡である。
史跡	足守藩主木下家墓所 (あしもりはんしゅきのしたけぼしょ) 北区足守	平成14年 4月10日 (2002)	大光寺	大光寺の裏山にあり、歴代藩主のほか子女及び利玄の父利永など一族の墓塔が総計30基あり、2基の石造燈籠もある。
史跡	常山城跡 (つねやまじょうあと) 南区迫川	平成22年 7月27日 (2010)	岡山市	備前国屈指の大規模山城で、曲輪の段築構造や石垣などの遺構も良く残る。近世城郭への変遷も窺える。
史跡	金川城跡 (かながわじょうあと) 北区御津金川ほか	平成22年 7月27日 (2010)	国	備前最大級の山城で、曲輪の段構造や土塁、石垣、井戸などの遺構も良く残り、戦国期から近世期への変遷を窺う事もできる。

史跡	亀山城跡 (かめやまじょうあと) 東区沼	平成24年 9月25日 (2012)	岡山市ほか	東西に並ぶ二つの丘陵に築造された連郭・輪郭折衷式の山城。宇喜多直家の居城で、城郭規模や内容・由来など備前国内屈指。
史跡	石舟古墳 (いわふねこふん) 北区尾上	平成30年 3月20日 (2018)	個人	6世紀末から7世紀初頭に築かれた一辺の12m方墳で横穴式石室を有する。石室内には竜山石製の家形石棺が残る。
史跡	一本松古墳 (いっぽんまつこふん) 北区法界院	平成30年 12月25日 (2018)	岡山市ほか	5世紀後半に築かれた前方後円墳で前方部が短い帆立貝式。全長65mで前方部の先に2基の陪塚とみられる方墳がある。
史跡	建部井堰 (たけべいせき) 北区建部町品田	令和6年 2月20日 (2024)	建部郷 土地改良区	17世紀代の築造。堰堤の全長は約650mあり、現存する江戸時代の石造の取水堰としては日本最大級。保存状態も良好。
天然記念物	うばめかし (うばめがし) 東区片岡	昭和30年 11月 1日 (1955)	個人	樹高約5m、幹周2m。推定樹齢300年。灌木種のこの木が喬木に成長することは希少である。
天然記念物	大そてつ (おおそてつ) 東区宿毛	昭和36年 5月22日 (1961)	個人	樹高5.12m、根回り約4m。横広がり径4m。樹齢約600年との伝承があり、樹齢・生育とも比類が少ない。
天然記念物	鬼子母神のえんじゅ (きしもじんのえんじゅ) 南区浜野一丁目	昭和40年 7月30日 (1965)	松寿寺	樹高約8m、幹周約6m、樹齢は推定500年。幹に神像出現伝承の空洞があり、これをくぐると子宝に恵まれるという。
天然記念物	キビノミノボロスゲ (きびのみのぼろすげ) 地域を定めず(北区一宮)	昭和60年 4月 9日 (1985)		カヤツリグサ科の多年草で、主に朝鮮・中国に自生し、我が国では吉備地方に限られており、伝播が注目されている。
天然記念物	古森神社のムクノキ (こもりじんじゃのむくのき) 北区御津鹿瀬	平成19年 8月27日 (2007)	古森神社	樹高28m、幹周7.6m、樹齢推定500年で、県下のムクノキでは第2位の巨樹。やや空洞化もみられるが樹勢は衰えていない。
天然記念物	土師方の公孫樹 (はじかたのいちよう) 北区建部町土師方	平成22年 7月27日 (2010)	天津神社	樹高38m、幹周4.5m、推定樹齢500年の大木。よく分枝し、太い枝の基部からは気根を下ろして、樹形並びに樹勢も良好。
天然記念物	八幡橋下の公孫樹 (やわたばししたのいちよう) 北区建部町福渡	平成22年 7月27日 (2010)	個人	樹高23m、幹周4.2m、推定樹齢250年の巨木で樹勢も良好。隣接する荒神社の弘化2年(1845)の勧請札にイチョウの記載がある。
天然記念物	神力稲荷の大杉 (こうりきいなりのおおすぎ) 北区建部町市場	平成22年 7月27日 (2010)	神力稲荷	樹高37m、幹周4.8m、推定樹齢400年の大木で、根が延びる状況や風雪に耐えた樹皮からは風格が醸し出される。

天然記念物	堂萬の大榎 (どうまんのおおかし) 北区建部町三明寺	平成22年 7月27日 (2010)	個人	樹高18m、幹周5.7m、樹齢不詳の大木で、樹勢は衰えておらず、堅果も形成。生活に密着した路傍の名木として重要である。
天然記念物	入野のアベマキ (いりののあべまき) 北区建部町三明寺	平成22年 7月27日 (2010)	個人	樹高18m、幹周2.8m、樹齢不詳の古木で、樹勢は衰えておらず、路傍の名木として重要である。
天然記念物	大蔵の大榎 (おおくらのおおえのき) 北区建部町和田南	平成22年 7月27日 (2010)	個人	樹高13m、目通り幹周5.3m、樹勢も旺盛で、御神体として信仰されてきた風格のある老樹で、郷土の名木として重要である。
天然記念物	佐狩の大棕 (さかりのおおむく) 北区建部町鶴田	平成22年 7月27日 (2010)	個人	樹高23m、幹周5.5m、推定樹齢500年で、老樹の風格があり、路傍の名木として重要である。
天然記念物	延長庵の大イチョウ (えんちょうあんのおおいちょう) 南区宗津	平成22年 7月27日 (2010)	延長庵	樹高31m、幹周3.7m、推定樹齢250～300年で、上部はバランス良く分枝し、樹勢も旺盛で、地元のシンボルとなっている。
天然記念物	吉備津彦神社のアラカシ (きびつひこじんじやのあらかし) 北区一宮	平成30年 12月25日 (2018)	吉備津彦神社	樹高15m、幹周3.3m、推定樹齢250年の老木。境内にはアラカシの大木が数本あり、社叢林形成の主たる樹種の観を呈す。

【市指定重要有形民俗文化財】

種別	名称(ふりがな) 所在地	指定年月日 (西暦)	所有者 (管理者)	概要
有形民俗文化財	郡のだんじり (こおりのだんじり) 南区郡	昭和40年 7月30日 (1965)	郡だんじり管理 委員会	江戸時代中期・同末期・明治初年の3台。皆ほぼ同型で、車台に面取り方柱を立て唐破風造り屋根を組む。装飾は洗練品。
有形民俗文化財	つちえの井戸 (つちえのいど) 南区妹尾	昭和47年 3月24日 (1972)	岡山市	児島湾の初期干拓の妹尾地区は、井戸水が飲料用に適さず、山麓部のこの井戸が庶民の唯一の飲料用水源となっていた。
有形民俗文化財	戸川陣屋井戸 (とがわじんやいど) 南区妹尾	昭和47年 3月24日 (1972)	岡山市	妹尾地区を知行した旗本戸川氏の陣屋の井戸。明治維新後もこの井戸は飲料水に欠く当地の良水の供給源とされてきた。
有形民俗文化財	伝日像筆蓮昌寺七字の妙号 (でんにちぞうひつれんしょうじななじのみょうごう) 北区田町一丁目	昭和48年 12月20日 (1973)	蓮昌寺	南北朝時代の作と推定。縦7m、横4mの巨大な題目で、蓮昌寺の大曼陀羅として有名。開帳は城下町の年中行事であった。
有形民俗文化財	干拓地沖新田(政田)民俗資料 (かんとくちおきしんでん(まさだ)みんぞくしりょう) 東区政津	平成14年 4月10日 (2002)	政田民俗資料館	干拓地・沖新田の政田地区を中心に収集された、農具類を中心にした生産用具及び生活用具で、児島湾干拓の歴史、人々の生活を物語る貴重な民俗資料。
有形民俗文化財	天神社三方 (てんじんじゃさんぼう) 南区彦崎	平成19年 8月27日 (2007)	天神社	寛永19年(1642)、明和6年(1769)の墨書がある。現代の三方とは製法や形式も異なり、祭具の変遷を知る上でも貴重。
有形民俗文化財	絵馬「高瀬舟図」 (えま「たかせぶねず」) 北区後楽園	平成19年 8月27日 (2007)	素戔鳴神社 (岡山县立博物館)	寛政9年(1797)に金川村の船主とみられる多次郎が疫病退散、病氣平癒、商売繁盛などを祈って奉納。縦28.0cm、横71.4cm。
有形民俗文化財	多自枯鴨神社神輿 (たじこかもじんじゃみこし) 北区建部町田地子	平成24年 9月25日 (2012)	多自枯鴨神社	文化10年(1813)の作。組物などは精巧かつ重厚で全体の姿が美しい。墨書から大工名、年代が明確。市場大工の作。

【市指定重要無形民俗文化財】

種別	名称(ふりがな) 所在地	指定年月日 (西暦)	保護団体 (管理者)	概要
無形民俗 文化財	備前岡山獅子舞太鼓唄 (びぜんおかやまししまいたいこうた) 北区出石町	昭和39年 2月 3日 (1964)	備前岡山獅子舞太鼓唄 保存会	江戸時代前期の祭礼用獅子舞と、同後期の江戸のコチャエ節の変化した太鼓唄とからなる。統制下の城下町の庶民芸能。
無形民俗 文化財	津島八朔おどり (つしまはっさくおどり) 北区津島西坂	昭和46年 10月22日 (1971)	津島八朔おどり保存会	盆踊り禁止の岡山藩内で、旧暦8月1日に豊作祈願の行事としてこの地区内で催されていた盆踊り。古い形を伝えている。
無形民俗 文化財	吉備津彦神社流鏑馬神事 (きびつひこじんじゃやぶさめしんじ) 北区一宮	昭和47年 3月24日 (1972)	吉備津彦神社	元禄9(1696)年の再興時から行われている秋の大祭の神事。古式装束の騎手2名が2本の矢で二つの的を射るもの。
無形民俗 文化財	岡山下出石お綱祭り (おかやましもいずしおつなまつり) 北区出石町	平成16年 2月24日 (2004)	岡山下出石お綱祭り保存会	綱で作った竜を担ぎ上げ、太鼓・鉦・掛け声などに合わせて町内を練り歩き岡山神社に奉納。無病息災・家業繁栄など祈願。
無形民俗 文化財	シャギリ船行事 (しゃぎりぶねぎょうじ) 東区水門町	平成26年 8月22日 (2014)	水門亀岩シャギリ保存会	亀石神社満潮祭に提灯で満船飾りにした屋形船で独特の囃子を奏でながら水門湾内を巡航。旧暦6月15日の夜に実施される。

【市選定保存技術】

種別	名称(ふりがな) 事務所の所在地	選定年月日 (西暦)	保存団体	概要
選定保存 技術	撫川うちわ製作技術 (なつかわうちわせいさくぎじゅつ) 北区撫川	昭和60年 4月 9日 (1985)	撫川うちわ保存会三杉堂	庭瀬藩下級武士の内職として始まり、となりの撫川知行所へも広まり、後者が中心地となって、備中の名産品とされるに至った。

4 登録文化財ほか

【国登録有形文化財】

種別	名称(ふりがな) 所在地	登録年月日 (西暦)	所有者 (管理者)	概要
建造物	岡山禁酒会館 (おかやまきんしゅかいかん) 北区丸ノ内一丁目	平成14年 6月25日 (2002)	財団法人 禁酒会館	大正12年(1923)の建築。木造3階建、スレート葺。ドイツ壁風と白タイル張を組み合わせた垂直性を強調した正面意匠。
建造物	大賀家住宅主屋 (おおがけじゅうたくしゅおく) 北区今保	平成14年 6月25日 (2002)	個人	江戸後期の建築。木造2階建、瓦葺。江戸時代の商家の住宅。江戸後期から明治中期に新築、移築された建物で構成。
建造物	大賀家住宅離座敷 (おおがけじゅうたくはなれざしき) 北区今保	平成14年 6月25日 (2002)	個人	明治初期の建築。木造平屋建、瓦葺。8畳間の座敷は、数寄屋風の意匠で、床・棚・書院のつくりも丁寧で質が高い。
建造物	大賀家住宅二階座敷 (おおがけじゅうたかにいざしき) 北区今保	平成14年 6月25日 (2002)	個人	江戸後期の建築。木造2階建、瓦葺で明治中期の移築。縁板の桜材や天井の面皮杉の棹縁など用材に凝った丁寧なつくり。
建造物	大賀家住宅納屋 (おおがけじゅうたくなや) 北区今保	平成14年 6月25日 (2002)	個人	江戸後期の建築。木造平屋建、瓦葺。主屋後方にあつて、屋敷構えを一体感のあるものにしている。
建造物	大賀家住宅雑具物置及び臼場 (おおがけじゅうたくぎつぐものおきお よびうすば) 北区今保	平成14年 6月25日 (2002)	個人	木造平屋建、瓦葺。江戸後期の建築。平面波L字型で、小規模な附属施設であるが、外観は重厚。
建造物	大賀家住宅内蔵 (おおがけじゅうたくうちぐら) 北区今保	平成14年 6月25日 (2002)	個人	明治中期の建築。土蔵造平屋建、瓦葺。小窓には鉄格子がはまり、厚い片開き漆喰戸など厳重なつくり。
建造物	大賀家住宅土蔵 (おおがけじゅうたくとぞう) 北区今保	平成14年 6月25日 (2002)	個人	江戸後期の建築。桁行四間、梁間三間、2階建の土蔵造で、屋根は本瓦葺、東面に蔵前の庇をつける。
建造物	大賀家住宅漬物納屋及び荷揚げ納屋 (おおがけじゅうたくつけものなやおよ びにあげなや) 北区今保	平成14年 6月25日 (2002)	個人	江戸後期の建築。木造平屋建、瓦葺。水路側を門と壁、屋敷内側を吹放しとする。大量の物資を扱った商家に欠かせない施設。
建造物	大賀家住宅表門 (おおがけじゅうたくおもてもん) 北区今保	平成14年 6月25日 (2002)	個人	江戸後期の建築。入母屋造・本瓦葺、桁行2間、梁間1間半の規模で、出桁造を用いた深い軒など、屋敷の正面にふさわしい形態。
建造物	三野浄水場第一水源取水口 (みのじょうすいじょうだいいちすいげ んしゅすいこう) 北区三野	平成17年 2月9日 (2005)	岡山市	明治38年(1905)建築、大正15年(1926)増改築。コンクリート及び鉄筋コンクリート造。サイフォン式取水方式から自然流下式に改築。

種別	名称(ふりがな) 所在地	指定年月日 (西暦)	所有者 (管理者)	概要
建造物	三野浄水場緩速ろ過池 (みのじょうすいじょうかんそくろかち) 北区三野	平成17年 2月9日 (2005)	岡山市	明治38年建築。昭和初期増築。 平面方形の2基の池。周壁をコンクリートブロックで積み、縁石に花崗岩を用いる。
建造物	三野浄水場旧動力室・送水ポンプ室 (みのじょうすいじょうどうりょくしつ・そうすいぼんぶしつ) 北区三野	平成17年 2月9日 (2005)	岡山市	明治37年(1904)建築。煉瓦造平屋建、 棧瓦葺、寄棟造、平入り。腰を花崗岩で 積み、四周の窓に密度の高い意匠を凝らす。
建造物	半田山配水地一号配水池 (はんだやまはいすいちいちごうはいすいち) 北区法界院	平成17年 2月9日 (2005)	岡山市	明治38年建築。煉瓦及び鉄筋コンクリート造。 円形平面。内部に同心円の二重の隔壁設け、 頂部に煉瓦造アーチを廻らす。
建造物	半田山配水地二号配水池 (はんだやまはいすいちにごうはいすいち) 北区法界院	平成17年 2月9日 (2005)	岡山市	明治38年建築。規模・構造ともに一号配水池と同様。
建造物	半田山配水地三号配水池 (はんだやまはいすいちさんごうはいすいち) 北区法界院	平成17年 2月9日 (2005)	岡山市	大正8年(1919)建築。第一期拡張工事による増設で 規模・構造は一・二号配水池と同様。
建造物	半田山配水地創建量水室 (はんだやまはいすちそうけんりょうすいしつ) 北区法界院	平成17年 2月9日 (2005)	岡山市	明治38年建築。煉瓦造平屋建。正六角形平面の煉瓦造構造物。 正面開口部は意匠をこらし、他の壁面は 枠取りした丸窓を配す。
建造物	半田山配水地増設量水室 (はんだやまはいすちぞうせつりょうすいしつ) 北区法界院	平成17年 2月9日 (2005)	岡山市	昭和14年(1939)建築。鉄筋コンクリート造平屋建。 正六角形平面。煉瓦積風のタイル張り壁面やモルタル洗出の窓枠。
建造物	半田山配水地旧事務所 (はんだやまはいすちきゅうじむしょ) 北区法界院	平成17年 2月9日 (2005)	岡山市	明治38年建築。木造平屋建、寄棟造、瓦葺。 桁行五間、梁間二間。腰縦板張でその上を 下見板張とし四周に瓔珞飾りを廻らす。
建造物	京橋水管橋 (きょうばしすいかんきょう) 北区京橋町～中区西中島町	平成17年 2月9日 (2005)	岡山市	明治38年建築。最初期の水道用鋼製橋。 鋼製5連トラス橋で橋脚は五角形平面の コンクリート造。
建造物	おかやま旧日銀ホール(旧日本銀行岡山支店本館) (おかやまきゅうにちぎんほーる(きゅうにほんぎんこうおかやましてんほんてん)) 北区内山下一丁目	平成17年 2月9日 (2005)	岡山県	大正11年(1922)の建築。外装に花崗岩を用いた煉瓦造及び石造建築物。 小屋組は鉄骨トラス。長野宇平治設計の古典主義様式。
建造物	旧京橋火の見櫓 (きゅうきょうばしひのみやぐら) 北区京橋町	平成18年 3月27日 (2006)	岡山市	大正13年(1924)建築。高さ21m。四脚の山形鋼を組み、その上に望楼を載せる。 坪田利吉の寄付。

種別	名称(ふりがな) 所在地	指定年月日 (西暦)	所有者 (管理者)	概要
建造物	J R 津山線(旧中国鉄道)建部駅駅舎 (じえいあーつやません(きゅうちゅう ごくてつどう)たけべえきえきしゃ) 北区建部町中田	平成18年 3月27日 (2006)	JR西日本	明治31年(1898)に開通し、その2年後 に建設。木造平屋建、瓦葺。基礎は花崗 岩切石。外壁は腰板張、漆喰壁。
建造物	岡山大学情報展示室(旧陸軍第17師 団司令部衛兵所) (おかやまだいがくじょうほうてんじし つ(きゅうりくぐんじゅうななしだんし れいんぶえいへいしよ) 北区津島中	平成19年 5月15日 (2007)	岡山大学	明治41年(1911)の建築。木造平屋建、 瓦葺。基礎は煉瓦造。板壁。小規模なが ら丁寧な作り。
建造物	岡山大学医学部衛所(旧岡山医科学 大学門衛所) (おかやまだいがくいがくぶえいしよ (きゅうおかやまいかだいがくもんえい しよ)) 北区鹿田町	平成19年 5月15日 (2007)	岡山大学	大正11年(1922)の建築。門衛所は木造 平屋建、天然スレート葺、基礎は花崗岩 を敷き、平面形は変形六角形。
建造物	岡山大学医学部正門(旧岡山医科学 大学正門) (おかやまだいがくいがくぶせいもん (きゅうおかやまいかだいがせいもん)) 北区鹿田町	平成19年 5月15日 (2007)	岡山大学	門柱は左右に大小2基配置。間口は 10.4m。門柱の基礎は花崗岩で煉瓦を積 みさらに上部に花崗岩を積み照明を載せ る。
建造物	ノートルダム清心女子大学ノートル ダムホール本館 (のーとるだむせいしんじょしだいがく のーとるだむほーるほんかん) 北区伊福町2丁目	平成19年 7月31日 (2007)	ノートルダム 清心学園	昭和4年(1929)の建築。鉄筋コンク リート造、2階建。中庭を囲むロの字形 の建物配置。アントニン・レーモンドが 設計。
建造物	ノートルダム清心女子大学ノートル ダムホール東棟 (のーとるだむせいしんじょしだいがく のーとるだむほーるひがしとう) 北区伊福町2丁目	平成19年 7月31日 (2007)	ノートルダム 清心学園	昭和4年(1929)の建築。鉄筋コンク リート造、3階建。中央に聖堂を配し外 観は色ガラスの入った小窓が並ぶ。上部 に鐘楼を設ける。
建造物	岡山県立高松農業高等学校資料館 (旧岡山県立農学校堆肥舎) (おかやまけんりつたかまつのうぎょう こうとうがっこうしりょうかん(きゅう おかやまのうがっこうたいひしゃ) 北区高松原古才	平成19年 10月2日 (2007)	高松農業 高等学校	明治42年(1909)の建築。煉瓦造平屋 建。屋根は入母屋造、茅葺。壁面のレン ガはフランス積み。上部は漆喰仕上げ。
建造物	妙教寺本堂 (みょうきょうじほんどう) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	明治15年(1882)の建築。7間6間相当の 重層入母屋造、本瓦葺本堂。内部は1室 で畳敷。
建造物	妙教寺客殿及び庫裏 (みょうきょうじきやくでんおよびくり) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	大正5年(1916)建築。東西棟入母屋造 の客殿の東端に、南北棟切妻造の庫裏が 付く。屋根は本瓦葺。重厚で風格ある構 えをみせる。

種別	名称(ふりがな) 所在地	指定年月日 (西暦)	所有者 (管理者)	概要
建造物	妙教寺寒松軒 (みょうきょうじかんしょうけん) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	大正期の建築。西側は庭に面する木造2階建、入母屋造棧瓦葺建物。前面の庭園を意識した建築。
建造物	妙教寺太鼓楼及び渡廊下 (みょうきょうじたいこうろおよびわた りろうか) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	客殿から北に延びる廊下で、北端に階段室を兼ねる太鼓楼を設ける。客殿北の庭を画し、庭園景観を構成する一要素である。
建造物	妙教寺宝光閣 (みょうきょうじほうこうかく) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	木造平屋地下1階建、入母屋造で軒先銅板葺の棧瓦葺とし、千鳥破風を付ける。煉瓦積基礎と伝統的木造が独特の外観をなす。
建造物	妙教寺御水舎 (みょうきょうじおみずや) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	木造平屋建、切妻造棧瓦葺。吹放ちとし、中央に水盤を置く。絵様や木鼻などに近代的な意匠をよく表す。
建造物	妙教寺山門 (みょうきょうじさんもん) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	規模の大きな一間一戸薬医門、切妻造本瓦葺。彫物は良質で、構造的に見応えがある山門。
建造物	妙教寺霊応殿経王殿 (みょうきょうじれいおうでんきょうおうでん) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	本殿正面に建つ切妻造妻入檜皮葺で、落棟で拝殿と繋ぎ、背面に唐破風造の突出部を付ける。細部まで丁寧な仕上げになる。
建造物	妙教寺霊応殿拝殿 (みょうきょうじれいおうでんはいでん) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	入母屋造檜皮葺。桁行三間梁間三間で、周囲を吹き放つ。布基礎石をまわし、その上に礎盤を置き円柱を建てる。低い板床を張る。
建造物	妙教寺霊応殿前殿 (みょうきょうじれいおうでんぜんでん) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	拝殿正面に繋がる桁行四間梁間一間の細長い建物。唐破風造妻入檜皮葺。経王殿や拝殿と一体となり、荘厳な礼拝空間をつくる。
建造物	妙教寺五社天王社 (みょうきょうじごしゃてんのうしゃ) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	七十七末社中で唯一の五間社。流造檜皮葺、高い切石積基壇上に建つ。効果的に彫刻を用い、落ち着いた意匠とする。
建造物	妙教寺三光天王社 (みょうきょうじさんこうてんのうしゃ) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	千鳥破風付入母屋造檜皮葺で、正面に軒唐破風付の向拝。水引虹梁や繫虹梁を龍彫刻とするなど華やかな彫物装飾で充たす。
建造物	妙教寺夜守天王社 (みょうきょうじよもりてんのうしゃ) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	入母屋造妻入檜皮葺で、一間向拝を付ける。向拝木鼻は複雑な絵様を彫り残す籠彫とする。
建造物	妙教寺妙正天王社 (みょうきょうじよしまさしょうてんのうしゃ) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	一間社流造檜皮葺。正側面に擬宝珠高欄付切目縁をまわす。装飾的要素を抑えた社殿。

種別	名称(ふりがな) 所在地	指定年月日 (西暦)	所有者 (管理者)	概要
建造物	妙教寺縁引天王社 (みょうきょうじえんびきてんのうしゃ) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	一間社流造檜皮葺。明治期に遡る末社のひとつ。小規模で、彫物装飾がなく、簡明な社殿。
建造物	妙教寺日車天王社 (みょうきょうじひぐるまてんのうしゃ) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	千鳥破風付入母屋造檜皮葺で、正面に軒唐破風付一間向拝を設ける。尾垂木や組物間、繫虹梁、水引虹梁、脇障子など豊かな彫物装飾をもつ。
建造物	妙教寺荒熊天王社 (みょうきょうじあらくまてんのうしゃ) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	千鳥破風付入母屋造檜皮葺で、正面に軒唐破風付一間向拝を設ける。各所を彫物で飾り、扉も装飾的な格子戸とする。末社群中最も装飾的な社殿のひとつ。
建造物	妙教寺朝日天王社 (みょうきょうじあさひてんのうしゃ) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	千鳥破風付入母屋造檜皮葺で、正面に軒唐破風付一間向拝を設ける。象や唐獅子、雲など彫刻は独特の雰囲気をもつ。
建造物	妙教寺信受・照両天王社 (みょうきょうじのぶ・あきりょうてんのうしゃ) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	小規模な一間社で、千鳥破風付入母屋造檜皮葺で、軒唐破風付向拝を設ける。建物規模に対し大振りな彫刻で飾る。
建造物	妙教寺羽弥御崎天王社 (みょうきょうじはやみさきてんのうしゃ) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	末社群中で最も規模の大きい一間社。千鳥破風付入母屋造檜皮葺で、軒唐破風付一間向拝を設ける。向拝ほかを多くの彫刻で充たす。
建造物	妙教寺大乘天王社 (みょうきょうじおおのりてんのうしゃ) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	一間社流造檜皮葺。正側面に擬宝珠高欄付切目縁をまわす。同時期の妙正天王社と同じ規模・形式になる。
建造物	妙教寺御厩舎 (みょうきょうじおんきゅうしゃ) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	桁行2.9m 梁間1.8mの切妻造妻入本瓦葺。正面に両開戸を設け、内部に神馬像を安置。小規模な神厩舎の好例。
建造物	妙教寺末廣天王社 (みょうきょうじすえひろてんのうしゃ) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	小規模な一間社で、流造檜皮葺。彫刻装飾は限定的であり、質実な意匠にまとめる。
建造物	妙教寺秀義天王社 (みょうきょうじひでよしてんのうしゃ) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	一間社流造檜皮葺。要所に彫物装飾を配しており、小規模ながら丁寧に造り込まれた社殿である。
建造物	妙教寺六社天王社一富天王社 (みょうきょうじろくしゃてんのうしゃ いちとみてんのうしゃ) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	六社天王社と総称される6棟の末社群の一棟。一間社流造檜皮葺。正面のみ二軒とする。妻は虹梁・又首組。抑制の利いた落ち着いた意匠になる。

種別	名称(ふりがな) 所在地	指定年月日 (西暦)	所有者 (管理者)	概要
建造物	妙教寺六社天王社夜守天王社 (みょうきょうじろくしゃてんのうしゃ よもりてんのうしゃ) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	一間社流造檜皮葺。正面のみ二軒繁垂木で、妻は虹梁又首組。縁を二手先の挿肘木、浜縁を持送りで支持する。
建造物	妙教寺六社天王社大元鬼天王社 (みょうきょうじろくしゃてんのうしゃ だいげんきてんのうしゃ) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	一間社流造檜皮葺。妻を梁上に束立とし、正背面とも一軒繁垂木、浜縁を挿肘木で支持し、繫虹梁がなく手挟とする。
建造物	妙教寺六社天王社白糸天王社 (みょうきょうじろくしゃてんのうしゃ しらいとてんのうしゃ) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	一間社流造檜皮葺。妻は虹梁又首組。一富天王社や夜守天王社と細部の特徴も含めて同じ規模・形式になる。
建造物	妙教寺六社天王社福恵天王社 (みょうきょうじろくしゃてんのうしゃ ふくよしてんのうしゃ) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	一間社流造檜皮葺。妻は虹梁上に束立で、正面のみ二軒繁垂木とし、繫虹梁を略し、手挟とする。手挟や虹梁には若葉風絵様を用いる。
建造物	妙教寺六社天王社福崎天王社 (みょうきょうじろくしゃてんのうしゃ ふくさきてんのうしゃ) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	六社天王社のうち最も南に建つ一間社流造檜皮葺。向拝に手挟を用いるなど、大元鬼天王社に近い仕様。
建造物	妙教寺鐘楼 (みょうきょうじしゅうろう) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	文久2年(1862)の建築。四方吹放ちの鐘楼で入母屋造本瓦葺。江戸期の妙教寺の姿を伝える数少ない遺構。
建造物	妙教寺清正公堂 (みょうきょうじせいしょうこうどう) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	加藤清正を法華經の守護神としてまつ。一間社で入母屋造銅板葺。龍彫刻の尾垂木付三手先詰組、腰組を四手先とするなど賑やか。
建造物	妙教寺仁王門 (みょうきょうじにおうもん) 北区高松稲荷	平成21年 1月8日 (2009)	妙教寺	昭和32年(1957)の建立の花崗岩切石貼のRC造。インドの仏塔風の建築。仏教考古学者・石田茂作のアイデアで、岸田日出人の設計。伝統的な社頭景観において異彩を放つ。
建造物	岡山県立岡山朝日高校(旧第六高等学校)柔道場 (おかやまけんりつおかやまあさひこう こう(きゅうだいろくこうとうがっこう) じゅうどうじょう) 中区古京町	平成23年 1月26日 (2011)	岡山朝日 高等学校	大正8年(1919)の建築。切妻造妻入鉄板葺。小屋は洋小屋とし、床組にバネを装置して弾力をもたせる。大正期の柔道場の好例。
建造物	岡山県立岡山朝日高校(旧第六高等学校)東書庫 (おかやまけんりつおかやまあさひこう こう(きゅうだいろくこうとうがっこう) ひがししょこ) 中区古京町	平成23年 1月26日 (2011)	岡山朝日 高等学校	明治35年(1902)の建築。煉瓦造三階建、切妻造棧瓦葺。外壁はモルタル塗で、窓に鉄格子をはめる。堅牢なつくりの書庫。

種別	名称(ふりがな) 所在地	指定年月日 (西暦)	所有者 (管理者)	概要
建造物	岡山県立岡山朝日高校(旧第六高等学校)西書庫 (おかやまけんりつおかやまあさひこうこう(きゅうだいろくこうとうがっこう)にししよこ) 中区古京町	平成23年 1月26日 (2011)	岡山朝日 高等学校	昭和5年(1930)の建築。鉄筋コンクリート造三階建、陸屋根。煉瓦造の基礎、各階に付したコーニスや連続窓など、東書庫の外観と調和を図る。
建造物	岡山県立岡山朝日高校(旧第六高等学校)正門及び石積 (おかやまけんりつおかやまあさひこうこう(きゅうだいろくこうとうがっこう)せいもんおよびいしづみ) 中区古京町	平成23年 1月26日 (2011)	岡山朝日 高等学校	校地西辺の正門と、校地を囲う石積。伝統校に相応しい風格を醸している。
建造物	岡山県総合グランドクラブ(旧岡山皆行社) (おかやまけんそうごうぐらんどくらぶ(きゅうおかやまかいこうしゃ)) 北区いずみ町	平成24年 8月13日 (2012)	岡山県	陸軍第17師団の将校の社交場「皆行社」として建てられた洋風建築。木造二階建、寄棟造棧瓦葺。外観は半円ペディメントやイオニア式円柱を用いた古典様式。
建造物	西大寺牛玉所殿本殿・釣殿及び拝殿 (さいだいじごおしよでんほんでん・つりどのおよびはいでん) 東区西大寺中三丁目	平成29年 5月2日 (2017)	西大寺	明治13年(1880)の建築。木造平屋建、本瓦葺。邑久大工の作になる複合社殿。本殿上に楼閣を設ける。本殿天井は未完。
建造物	西大寺牛玉所殿奥殿 (さいだいじごおしよでんおくでん) 東区西大寺中三丁目	平成29年 5月2日 (2017)	西大寺	明治2年(1869)の建築。一間社、宝形造、本瓦葺。小ぶりながら、三方に縁を廻らし、脇障子を設け向拝周り、組物に濃密な意匠。
建造物	西大寺高祖堂 (さいだいじこうそどう) 東区西大寺中三丁目	令和元年 9月10日 (2019)	西大寺	方三間、方形造り本瓦葺きで、組物は出組、中備は裏股で、装飾を控えた格式高いつくりを見せる。
建造物	西大寺経蔵(輪蔵) (さいだいじきやうぞう(りんぞう)) 東区西大寺中三丁目	令和元年 9月10日 (2019)	西大寺	六角形平面の本瓦葺で、外壁は軒裏まで漆喰で塗込める。内部に八角輪蔵を備えた六角経蔵の貴重な遺構である。
建造物	西大寺仁王門 (さいだいじにおうもん) 東区西大寺中三丁目	令和元年 9月10日 (2019)	西大寺	入母屋造本瓦葺の三間一戸楼門。精緻な大工技術を駆使した禅宗様で、規模雄大な楼門の好例。
建造物	西大寺石門 (さいだいじいしもん) 東区西大寺中三丁目	令和元年 9月10日 (2019)	西大寺	入母屋造本瓦葺の竜宮造楼門。下層は石造、上層は木造で外壁を軒裏まで漆喰で塗込め、各間に花頭窓を開く。
建造物	西大寺石門 (さいだいじいしもん) 東区西大寺中三丁目	令和元年 9月10日 (2019)	西大寺	入母屋造本瓦葺の竜宮造楼門。下層は石造、上層は木造で外壁を軒裏まで漆喰で塗込め、各間に花頭窓を開く。
建造物	林原美術館本館 (はやしばらびじゅつかんほんかん) 北区丸の内二丁目	令和5年 8月7日 (2023)	ナガセヴィータ(株)	岡山城二の丸跡に建つ前川國男設計の鉄筋コンクリート造の美術館。中庭を中心に単位空間を連続した回遊性を重視する平面計画。外壁の焼過ぎ煉瓦等の特徴。

種別	名称(ふりがな) 所在地	指定年月日 (西暦)	所有者 (管理者)	概要
建造物	林原美術館東蔵 (はやしばらびじゅつかんひがしぐら) 北区丸の内二丁目	令和5年 8月7日 (2023)	ナガセヴィータ(株)	明治前期に建設。土蔵造二階建て切妻造本瓦葺、外部は漆喰塗。
建造物	林原美術館中蔵 (はやしばらびじゅつかんなかぐら) 北区丸の内二丁目	令和5年 8月7日 (2023)	ナガセヴィータ(株)	明治前期に建設。土蔵造二階建て切妻造本瓦葺、外部は漆喰塗。
建造物	林原美術館西蔵 (はやしばらびじゅつかんにしぐら) 北区丸の内二丁目	令和5年 8月7日 (2023)	ナガセヴィータ(株)	明治14年に建設。土蔵造二階建て切妻造本瓦葺、外部は漆喰塗。
建造物	林原美術館長屋門 (はやしばらびじゅつかんながやもん) 北区丸の内二丁目	令和5年 8月7日 (2023)	ナガセヴィータ(株)	江戸末期の建設。旧生坂藩向邸から移築されたもので、藩邸の屋敷構えを伝える。
建造物	岡山県庁本庁舎本館 (おかやまけんちやうほんちやうしゃほんかん) 北区内山下二丁目	令和6年 12月3日 (2024)	岡山県	岡山城二の丸跡に位置する県庁舎。下層は躯体を打放仕上、上層は黒色枠カーテンウォールとし、中央部のピロティや回廊で内外を一体として巧みに調和。前川國男による戦後庁舎建築の大作。
建造物	岡山県庁議会棟旧館 (おかやまけんちやうぎかいとうきゆうかん) 北区内山下二丁目	令和6年 12月3日 (2024)	岡山県	本庁舎と渡り廊下で連絡する議会棟。躯体の打放仕上、黒色サッシュ、橙色のホローブリックなど本館と共通の意匠でまとめる。
建造物	岡山県庁西庁舎 (おかやまけんちやうにしちやうしゃ) 北区内山下二丁目	令和6年 12月3日 (2024)	岡山県	三階以上は外壁を張出し、西正面は手摺などで格子状に割付軽快な立面とする。本庁舎に通じる意匠で調和を図った増築棟。
建造物	大元宗忠神社本殿 (おおもとむねただじんじゃほんでん) 北区上中野一丁目	令和6年 12月3日 (2024)	黒住教	明治18年(1885)の建築。基壇上に建つ入母屋造銅板葺社殿で正面に千鳥破風を据え、三間の向拝に軒唐破風を付す。細部まで丁寧なつくりの本殿。
建造物	大元宗忠神社拝殿 (おおもとむねただじんじゃはいでん) 北区上中野一丁目	令和6年 12月3日 (2024)	黒住教	明治18年(1885)の建築。比翼入母屋造銅板葺の大規模拝殿。向拝回りを豊富に装飾し、華やかかつ独特の概観を備えた拝殿。
建造物	大元宗忠神社社務所(旧神饌殿) (おおもとむねただじんじゃしゃむしょ) 北区上中野一丁目	令和6年 12月3日 (2024)	黒住教	明治18年(1885)の建築。入母屋造銅板葺東西棟の社務所。組物は木鼻付大斗肘木で一軒繁垂木とする。
建造物	大元宗忠神社御札所(旧神札殿) (おおもとむねただじんじゃおふだしょ) 北区上中野一丁目	令和6年 12月3日 (2024)	黒住教	明治18年(1885)の建築。入母屋造銅板葺東西棟の御札所。身舎周囲に刎高高欄付の切目縁を廻す。社務所と一対で境内景観をつくる。
建造物	大元宗忠神社拝殿北回廊 (おおもとむねただじんじゃはいでんきたかいろう) 北区上中野一丁目	令和6年 12月3日 (2024)	黒住教	明治18年(1885)の建築。拝殿と社務所を接続する回廊。平面矩折とする両下造銅板葺の渡廊下で、柱を胴差で繋ぎ、腰と内法上部は堅板張、床は拭板敷、天井は竿縁天井。
建造物	大元宗忠神社拝殿南回廊 (おおもとむねただじんじゃはいでんみなみかいろう) 北区上中野一丁目	令和6年 12月3日 (2024)	黒住教	明治18年(1885)の建築。拝殿と御札所を接続する回廊。平面矩折とする両下造銅板葺の渡廊下で、柱を胴差で繋ぎ、腰と内法上部は堅板張、床は拭板敷、天井は竿縁天井。

建造物	大元宗忠神社教祖記念館（旧布教所兼主屋） （おおもとむねただじんじゃきょうそきねんかん） 北区上中野一丁目	令和6年 12月3日 （2024）	黒住教	嘉永元年（1848）建築、明治15年（1882）移築。入母屋造茅葺で周囲に本瓦葺の下屋を廻らし、南面に大玄関を突出する。黒住教の記念碑的な建物。
建造物	大元宗忠神社武道館（旧大教会所） （おおもとむねただじんじゃぶどうかん） 北区上中野一丁目	令和6年 12月3日 （2024）	黒住教	明治32年（1899）の建築。入母屋造妻入棧瓦葺。木造トラスを用いて200畳に及ぶ無柱空間を実現した大規模道場。
建造物	大元宗忠神社長屋門 （おおもとむねただじんじゃながやもん） 北区上中野一丁目	令和6年 12月3日 （2024）	黒住教	江戸末期の建築。北面切妻造、南面入母屋造、本瓦葺。中央南寄りに板扉の門口を構えて石敷土間と北脇に潜り戸を設ける。
建造物	大元宗忠神社門及び瑞垣 （おおもとむねただじんじゃもんおよびみずがき） 北区上中野一丁目	令和6年 12月3日 （2024）	黒住教	明治18年（1885）の建築。門は銅板葺の平唐門。冠木上中央に浪に兎の彫刻。瑞垣は切妻造銅板葺で、柱間に菱格子と襻棧の欄間を嵌める。

【記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財】

種別	名称(ふりがな) 所在地	選択年月日 (西暦)	保護団体	概要
無形民俗 文化財	備中神楽 (びっちゅうかぐら)	昭和45年 6月8日 (1970)		備中地方で行われる荒神信仰による採 物神楽の一種。
無形民俗 文化財	吉備津彦神社の御田植祭 (きびつひこじんじやのおたうえまつり) 北区一宮	昭和54年 12月7日 (1979)	吉備津彦神社 御田植祭 保存会	毎年8月2・3日に行われる五穀豊穡を 祈る行事。御斗代神事と御福神事があ り、中世から行われていたことが絵巻に ある
無形民俗 文化財	岡山県の会陽の習俗 (おかやまけんのえようのしゅうぞく) 東区西大寺中三丁目ほか	平成15年 2月20日 (2003)		岡山県南部のいくつかの寺社で行われ る、会陽または裸祭りと呼ばれる行事。 年始に行われる修正会が民俗行事化した もの。

岡山市指定文化財一覧

(令和7年3月31日現在)

分類・種別				国	県	市	合計
指定	国宝・重要文化財	美術工芸品	絵画	8	5	7	20
			彫刻	4	8	10	22
			工芸品	31 (4)	36	9	76
			書跡・典籍	1	5	4	10
			古文書	1	4	7	12
			考古資料	2	5	4	11
			歴史資料	2	2	7	11
		建造物	建造物	8 (1)	17	28	53
			石造美術	3	6	10	19
	記念物	史跡	18	15	15	48	
		名勝	1 (1)	1	0	2	
		天然記念物	3 (2)	2	14	19	
	無形文化財	芸能	2	0	0	2	
		工芸技術	0	0	0	0	
	民俗文化財	有形民俗	0	2	8	10	
		無形民俗	1	4	5	10	
合計			85	112	128	325	
選定	文化的景観			0	—	—	0
	伝統的建造物保存地区			0	—	—	0
	選定保存技術			0	0	1	1
登録	登録有形文化財（建造物）			92	—	—	92
	登録有形文化財（美術工芸品）			0	—	—	0
	登録有形民俗文化財			0	—	—	0
	登録記念物			0	—	—	0
記録作成等の措置を講ずべき 無形の民俗文化財				3	—	—	3
重要美術品				9	—	—	9

※()は国宝、特別名勝、特別天然記念物の数で内数。

※国指定無形文化財は団体認定の構成員数

※国指定天然記念物はタンチョウ、アユモドキ、オオサンショウウオで、いずれも「地域を定めず」（個体指定）